

# 令和 7 年度 駅前ビル活性化センター管理事業 駒ヶ根駅前駐車場改修工事

令和 7 年 1 0 月

図 面 目 録														
図面番号		図面名称		縮尺	図面番号		図面名称		縮尺	図面番号		図面名称		縮尺
建築図	A-01	建築工事特記仕様書 1		NS	建築図	A-10	既存 立面図 1		1/200	建築図	19	改修 詳細図 2		1/20 1/50
	02	建築工事特記仕様書 2		NS		11	既存 立面図 2		1/200		20	直接仮設 1 階平面図		1/300
	03	建築工事特記仕様書 3		NS		12	既存 詳細図		1/60 1/30		21	直接仮設 2 階平面図		1/300
	04	建築工事特記仕様書 4		NS		13	改修 1 階平面図		1/300		22	直接仮設 立面図		1/200
	05	解体工事仕様書		NS		14	改修 2 階平面図		1/300					
	06	配置図・位置図		1/300		15	改修 R 階平面図		1/300	電気設備図	E-01	1 階電気設備撤去再取付図		1/300
	07	既存 1 階平面図		1/300		16	改修 立面図 1		1/200					
	08	既存 2 階平面図		1/300		17	改修 立面図 2		1/200					
	09	既存 R 階平面図		1/300		18	改修 詳細図 1		1/60 1/30					

令和 7 年度 駅前ビル活性化センター管理事業  
駒ヶ根駅前駐車場改修工事

## 建築・外構工事仕様書

## I 工事概要

[illegible]

## II 建築工事仕様

1. 共通仕様

- (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官庁官庁常務総監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版」（以下「標仕」という。）を適用する。
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの標準仕様書を適用する。
2. 特記仕様
- (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
- (2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
- 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
- 印と※印の付いた場合は、共に適用する。
- (3) 特記事項に記載の( )内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- (4) 特記事項に記載の(別 ( 5.3.7 ) による別図「各部配筋」の当該項目を示す。

	項 目	特 記 事 項																																					
① 一般共通事項	①適用基準等	<div><div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>建築工事標準詳細図</div><div>国土交通大臣官房官庁営繕部監修（最新版）</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>敷地調査共通仕様書</div><div>国土交通大臣官房官庁営繕部監修（最新版）</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>建築鉄骨設計基準</div><div>国土交通大臣官房官庁営繕部監修（最新版）</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編</div><div>国土交通大臣官房官庁営繕部監修</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>長野県建設工事写真撮影要領</div><div>長野県住宅部施設課制定（下の手引中に掲載）</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>長野県公共建築工事の手引</div><div>長野県住宅部施設課制定</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>公共建築改修工事標準仕様書</div><div>国土交通大臣官房官庁営繕部監修（最新版）</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>木造建築工事標準仕様書</div><div>国土交通大臣官房官庁営繕部監修（最新版）</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>建設工事非常災害防止対策要綱（建築工事編）</div><div>建設省建設経済局建設業課・住宅局建築指導課監修</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>工事現場の環境改善及び建設副産物の適正処理実施要領</div><div>長野県住宅部制定</div></div><div><div><input checked="" type="checkbox"/>長野県建設リサイクル推進指針</div><div></div></div></div></div>																																					
	2. 工事実績情報 （工事カルテ）の登録	※行う ・行わない（適用は特記仕様書 25. 2. (2)による） （手続方法照会先：（財）日本建設情報センター TEL 03-3505-2973）																																					
	②品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による ※風速（ $V_0 = 30$ ） ※地表面粗度区分（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ） ※積雪区分 告示示第1455号 別表（27）																																					
	③電気保安技術者	※適用する ・適用しない																																					
	5. 施工条件明示項目	・																																					
	④発生材の処理等	※別紙紙版工事仕様書による ○隣外搬出適正処理 また、収集・運搬・中間処理・最終処分等の処理について予め監督職員と協議すること。 <div><div><input checked="" type="checkbox"/>引き抜きを要する物</div><div><input checked="" type="checkbox"/>協議の上処分</div><div><input checked="" type="checkbox"/>再生資源の利用を図るもの</div><div><input checked="" type="checkbox"/>利用可能な物は出来るだけ行う</div></div>																																					
	⑤特別な材料の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。																																					
	⑥技 能 士	※ 適用する（一級技能士を採用している現場である旨の表示をすること。） ・適用しない ○技能士の配置に努めること																																					
		<table><tr><th>適用工事種別</th><th>技能検定の職種</th></tr><tr><td>鉄筋工事</td><td>・鉄筋施工（鉄筋組立て作業）</td></tr><tr><td>コンクリート工事</td><td>・型枠施工 ・コンクリート送施工</td></tr><tr><td>鉄骨工事</td><td>・鉄工 ・とび</td></tr><tr><td>ブロック・ALC・木工事</td><td>・ブロック建築 ・ALC・木施工</td></tr><tr><td>防水工事</td><td>・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴムシート防水作業 ・塗膜防水作業 ・シーリング 防水作業</td></tr><tr><td>石工事</td><td>・石材施工（石張り施工）</td></tr><tr><td>タイル工事</td><td>・タイル張り</td></tr><tr><td>木工事</td><td>・建築大工</td></tr><tr><td>屋根及びとい工事</td><td>・建築板金（内外装板金） ・かわらぶき ・スレート施工</td></tr><tr><td>金属工</td><td>・内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）</td></tr><tr><td>左官工事</td><td>・左官</td></tr><tr><td>建具工事</td><td>・建具製作 ・サッシ施工 ・ガラス施工</td></tr><tr><td>カーテンホルダ工事</td><td>・カーテンホルダ施工（PC） ・サッシ施工 ・ガラス施工</td></tr><tr><td>塗装工事</td><td>・塗装（建築塗装作業）</td></tr><tr><td>内装工事</td><td>・フローリング系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・塗装（壁装作業）</td></tr><tr><td>植栽工事</td><td>・造園</td></tr><tr><td>その他の工事</td><td>・装製作・家具製作・樹脂接着剤注入施工・自動ドア施工・れんが積み</td></tr></table>		適用工事種別	技能検定の職種	鉄筋工事	・鉄筋施工（鉄筋組立て作業）	コンクリート工事	・型枠施工 ・コンクリート送施工	鉄骨工事	・鉄工 ・とび	ブロック・ALC・木工事	・ブロック建築 ・ALC・木施工	防水工事	・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴムシート防水作業 ・塗膜防水作業 ・シーリング 防水作業	石工事	・石材施工（石張り施工）	タイル工事	・タイル張り	木工事	・建築大工	屋根及びとい工事	・建築板金（内外装板金） ・かわらぶき ・スレート施工	金属工	・内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）	左官工事	・左官	建具工事	・建具製作 ・サッシ施工 ・ガラス施工	カーテンホルダ工事	・カーテンホルダ施工（PC） ・サッシ施工 ・ガラス施工	塗装工事	・塗装（建築塗装作業）	内装工事	・フローリング系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・塗装（壁装作業）	植栽工事	・造園	その他の工事	・装製作・家具製作・樹脂接着剤注入施工・自動ドア施工・れんが積み
	適用工事種別	技能検定の職種																																					
鉄筋工事	・鉄筋施工（鉄筋組立て作業）																																						
コンクリート工事	・型枠施工 ・コンクリート送施工																																						
鉄骨工事	・鉄工 ・とび																																						
ブロック・ALC・木工事	・ブロック建築 ・ALC・木施工																																						
防水工事	・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴムシート防水作業 ・塗膜防水作業 ・シーリング 防水作業																																						
石工事	・石材施工（石張り施工）																																						
タイル工事	・タイル張り																																						
木工事	・建築大工																																						
屋根及びとい工事	・建築板金（内外装板金） ・かわらぶき ・スレート施工																																						
金属工	・内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）																																						
左官工事	・左官																																						
建具工事	・建具製作 ・サッシ施工 ・ガラス施工																																						
カーテンホルダ工事	・カーテンホルダ施工（PC） ・サッシ施工 ・ガラス施工																																						
塗装工事	・塗装（建築塗装作業）																																						
内装工事	・フローリング系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・塗装（壁装作業）																																						
植栽工事	・造園																																						
その他の工事	・装製作・家具製作・樹脂接着剤注入施工・自動ドア施工・れんが積み																																						
⑦施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係る当該建築物等に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。																																						
10. 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。																																						
11. 設計GL	※図示 ・設計GL=現状GL																																						

12. 化学物質の濃度測定

測定方法※吸引方法・簡易測定器・その他（）(I.5.9)

吸引方法の場合の検査機関次のいずれかとする。  
・(社)長野県薬剤師会検査センター  
・(社)長野市薬剤師会検査センター  
・(社)上田薬剤師会検査センター  
・環境計量証明事業の知事登録がある者で、監督員が承諾した者

測定物質※ホルムアルデヒド※トルエン※キシレン※メタノール※エチルベンゼン・その他（）

測定箇所(室)

計個所

※試料採取に当たっては、監督員又は監督員が指定する者が立ち会いの下に行う。

化学物質の室内汚染濃度指針値

ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	メタノール	エチルベンゼン	備 考
0.06ppm	0.07ppm	0.20ppm	0.05ppm	0.88ppm	

① 完成図等

※作成する(表I.7.1～I.7.3)(表I.7.1)

完成図(※設計図書で示したもの全て・標仕様I.7.1.による・監督員の指示による)

作成方法③原図用紙(※トリミング後A1・A1)④作図方法(※CADで作成し出力・)

・マイクロフィルム(7in・チャート付)

⑤縮本(原図の青焼き、見開きA1版):2部

・配置図縮小版(A3版マイクネ)

⑥CADデータ(※CD-R(1部)・)

② 完成写真

下記のものを監督職員に提出する。原画は撮影業者の保管とする。

分 類・規 格	撮 影 箇 数	部 数	写真のサイズ (mm)
※ カラー写真	外部 ( 5 ) 内部 ( 4 )	※3	※ カバセ版 ・サベス版
・ パネル (木製枠)	外部 ( ) 内部 ( )	※2	※ 半切 ・全紙
・ カラースライド	外部 ( ) 内部 ( )	※1	24×36以上
・ 電子データ	外部 ( ) 内部 ( )	※2	※200万画素以上 ※300dpi以上

電子データは、RGB (7bit/色) ・JPG又はBMP形式最高画質とし、CD-Rにて提出の上、上記部数の内、完成写真7bit/色版入り・パナソニック・完成写真カラー一式各一部を監理者へ提出。

撮影業者※ 建築完成写真撮影の実績のある業者 ・監督職員の承諾する撮影業者

③ 建築材料等

本工程に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASの表示のない材料及び製造者等は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。

(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること

(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること

(3) 安定的な供給が可能であること

(4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること

(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること

(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること

これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。

なお、(社)公共建築協会が発行する「建築材料・設備材料等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」に指定された材料については上記(1)～(6)に該当するものとする。

また、備考欄に商品名が記載された材料については、当該商品同等の性能を有するものとし、監督職員の承諾を受けた材料とする。

16. 化学物質を発生する建築材料等

本工程の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の(1)から(5)を満たすものとする。

(1) 合板、木質系フローリング、構造用合板、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、UV樹脂塗布、仕上げ塗材及び壁紙はホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。

(2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びメタンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。

(3) 接着剤は70%アルコール及び70%アルコール-2-ブチロキシ含有率の高い難揮発性可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。

(4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。

(5) 上記(1)・(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。

なお、ホルムアルデヒドを発生しないものとは発散量が規制対象外のもの、ホルムアルデヒドの発散が極めて少ないものとは発散量が第三種のものを用い、原則として規制対象外のものを使用するものとするが、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。

規 制 対 象 外

①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品

②建築基準法施行令第20条の5第4項による国土交通大臣認定品

③下記表示のあるJAS規格品

a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用

b. 接着剤等不使用

c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用

d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用

e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用

f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用

第 三 種

①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品

②建築基準法施行令第20条の5第3項による国土交通大臣認定品

③旧JISのEo規格品

④旧JISのFco規格品

② 仮設工事

① 監督員事務所※設ける○設けない(表2.3.1)

規模※10㎡程度・20㎡程度・( )㎡程度

② 工事用水構内既存の施設○利用できる(※有償・無償)※利用できない(2.3.1)

③ 工事用電力構内既存の施設○利用できる(※有償・無償)※利用できない(2.3.1)

3 土工事

1. 埋戻し及び盛土種別・A種※B種・C種・D種(3.2.3)(表3.2.1)

2. 建設発生土の処理※構外搬出適切な処理(3.2.5)

・構内の造成に利用・構内の指定場所内に積・構内の指定範囲に敷きならし

・構外の造成に利用(発注者の指示により。近接地に造成計画を予定)

4

地業  
工事

1. 既製  
コンクリート杭地業

種類  
※高強度プレストレストコンクリート杭（建築基準法に基づく指定又は認定を受けたもの）  
（4.3.1）（4.3.2）  
・

	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	継手数	セット数	備 考
試験杭					
本 杭					

  
先端部の形状 ※ 閉そく平たん ・ 開放形（4.3.2）  
杭の継手 建築基準法に基づく指定又は認定を受けた継手を使用してもよい。（4.3.6）  
杭頭の処理 ※ 切断しない ・（4.3.7）  
  
施 工 法（4.3.3～4.3.5）  
・ 特定埋込杭工法  
（建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの）  
・ 打込み工法

2. 場所打ち  
コンクリート杭地業

コンクリートの種別及び設計基準強度（4.5.3）（表4.5.1）  
（・ A 種 ・ B 種）かつ  $F_{ck} = ( )$  N/mm<sup>2</sup> 以上  
鉄筋の種類 5章鉄筋工事の鉄筋の種類による（4.5.3）  
掘削工法 ・ グースドリル工法（ ・ 安定液使用 ・ 無水掘削）（4.5.4）  
・ リバース工法  
・ オールケーシング工法（孔内の水張 ・ 行う ・ 行わない）  
・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法（4.5.5）  
・ 拡底杭工法（※安定液使用 ・ ）  
  
孔壁測定 ・ 行う（ ） ・ 行わない（4.5.4）

3. 碎石地業

※再生クラッシャーラン ・ 切込み砂利及び切込み碎石（4.6.3）

4. 床下防湿層

施工箇所 ※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）（4.6.6）

5. 地盤改良等

六価クロム溶出試験 ※行う ・ 行わない 特記仕様書 24.4.(4)参照  
※地盤改良仕様書による

5

鉄筋  
工事

※構造特記仕様書による

1. 鉄筋の種類別

種類

の記号

呼び名（mm）

（5.2.1）（表5.2.1）

・ S D 2 9 5 A

※ D 1 6 以下

・

・ S D 3 4 5

※ D 1 9 以上

・

2. 鉄筋の継手

呼び名 19mm 以上の柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・ 重ね継手（5.3.4）  
が圧接の場合は、超音波試験、引張試験のいずれかを行う

3. 鉄筋の最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは目地底から算定する。（5.3.5）  
・ 耐久上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施 工 箇 所

表5.3.5の値に加える寸法（mm）

柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面

※ 10

・

4. 既製コンクリート杭の  
杭頭補強

※ A 形 ・ B 形 ・ 図示（5.3.1）（別1.1）

5. 最上階柱頭補強

※行う ・ 行わない（別2.1）

6. 帯筋

※ H 形（口は除く） ・（別2.2）

7. 壁開口部の補強

一般壁 ※ A 形 ・ B 形 ・ 図示（別4.2）（別表4.3）（別表4.4）  
耐震壁 ※ 図示 ・

8. 梁貫通孔の補強形式

※ H 形 ・ M H 形 ・ M 形（別7.1）（別表7.1～別表7.3）

9. 機械吊上げ用フック

・ A 種 ・ B 種 ・ C 種（ 1 ヶ所）（別7.3）

10. 圧接完了後の試験

※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験（5.4.9）

6

コンクリート  
工事

※構造特記仕様書による

① 普通コンクリートの  
設計基準強度

設計基準強度  $F_{ck}$  (N/mm<sup>2</sup>)

施 工 箇 所

② 21

建物躯体（デッキ上コンクリート）

・ 18

土記以外

※構造特記仕様書による

※ I 類 ・ II 類（6.1.5）（6.4.1）（6.4.2）（表6.1.1）

② デミタコクリートの種別

③ スランプ

工作物のスランプ値は 15 又は 18 cm とする

④ セメントの種類

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種（6.3.2）（6.13.2）（6.16.2）（表6.3.1）  
・ 高炉セメント B 種（※場所打ちコンクリート杭 ・ ）  
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5 2 1 0 に示された規定の他、次の規定に適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱

7d 352J/g 以下

28d 402J/g 以下

⑤ 骨材の種類

アルカリシリカ反応による区分（6.3.3）（6.5.4）  
※ A ・ B（※コンクリート中のアルカリ総量  $R_{it} = 3.0 \text{ kg/m}^3$  以下）

⑥ 混和材料

※混和剤 ・ 混和材（6.3.5）（6.4.8）

7. 無筋コンクリート

設計基準強度 ※ 18N/mm<sup>2</sup>（6.14.3）

8. コンクリート躯体  
表面の処理

外装タイル後張り面の躯体表面の処理  
MCR工法は、せき版面にMCR工法用気泡材「R17シート」張りとし、仕上り面は凹凸状態とする。  
高圧水注工法の目視又は、水圧50N/mm<sup>2</sup>以上かつ2.5分/m以上とし、施工計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。また、目視又はの試験は、事前に監督職員に承諾を受ける。  
コンクリートの増打ち厚さ ※ 20mm ・

9. 型枠の種類

塗装の有無 ※無 ・ 有 ・ オーバーレイ（6.9.3）  
材質 ※複合合板 ・ 針葉樹合板 ・ 南洋材合板  
厚さ ※12mm ・

10. 断熱材兼用型枠

適用及び適用箇所について（特記仕様書 19.14にによる）

① 生コンの品質管理

打ち込み量50kg以上となるコンクリート工事においては担当技術者を配置し、監督職員に報告すること。  
供試体には、購買者がサインしたQC版（供試体型枠側面に張り付ける確認版）を入れる。

⑦鉄骨工事

①鉄骨の製作工場

②施工管理技術者

※構造特記仕様書による

○監製職員の承諾する製作業者  
※建築基準法第77条の4第5項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。  
入熱、バス間温度の溶接条件  
適用箇所・図示・柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部  
鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件  
※図示

※適用する・適用しない

3.鋼材

鋼材の材質 (7.2.1)(7.2.10)(表7.2.1)

種類の記号	使用箇所	規格等
構造図による		※JIS規格品
		※JIS規格品
		※JIS規格品
		※JIS規格品

4.高力ボルト

※トルシア形高力ボルト・JIS形高力ボルト・溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2)(7.12.4)

5.溶接部の試験

A O Q L ※4.0%・2.5% (7.6.11)  
検査水準 ※第6水準・図示 (7.6.11)(表7.6.2)

試験の種類		試験方法
※超音波探傷試験 (第三者試験の実施)	完全溶込み溶接部	※共注7.6.11(b)による ・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

6.耐火被覆

(7.9.2~7.9.6)

種別	所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り	
・耐火材	
吹付け	
・乾式吹付けロックウール	
・半乾式吹付けロックウール	
・湿式ロックウール	
・	
・耐火板張り ALC板t=50	

7.アンカーボルトの保持及び埋込み方法

・構造用アンカーボルト(・) (7.10.3)(表7.10.1)  
・建方用アンカーボルト(・A種 ※B種 ・C種)

8.柱底均しモルタル工法

※A種・B種 (7.2.9)(表7.10.2)

無収縮モルタル

混和材	セメント系(酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。
セメント	JIS R 5210(ポルトランドセメント)による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	(各重量比) (セメント+混和材):砂=1:1

無収縮モルタルの品質及び試験方法



コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒
フリージング	練混ぜ2時間後のフリージング率:2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内
無収縮性	材齢7日 収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日 25.0 N/mm <sup>2</sup> 以上 材齢28日 45.0 N/mm <sup>2</sup> 以上
付着強度	材齢28日 3.0 N/mm <sup>2</sup> 以上
塩化物量	0.30kg/m以下
試験方法	(1)日本道路公団規格(JHS)「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1992Iによる。 (2)塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストンクリット」付属書5(規定) 「フレキシコングリート中の塩化物付与濃度試験方法」による。



9.溶融亜鉛めっき工法

(7.12.3)(表14.2.2)

亜鉛めっき種類	材 料	適用部位
A種	最低板厚4.5mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最低板厚3.2mm以上、4.5mm未満の形鋼、鋼板	
C種	最低板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	※普通鋼・S・カト類、Zn-Crメッキ類

素地ごしらえは、JIS H9124溶融亜鉛めっき作業標準率による。

 <b>COM建築設計事務所</b> 管理建築士清水久雄 1級建築士登録195172号 長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL (0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383 E-mail : com-k@hb.tpl.jp	 <b>駒ヶ根市役所</b>	承認	件名	図面名称	縮尺	日付	図面番号
			令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業	建築工事特記仕様書 1	NS	R 7 ・ 10 ・ ※	A-01
			駒ヶ根駅前駐車場改修工事			・ ・	

 <b>COM建築設計事務所</b> 管理建築士清水久雄 1級建築士登録195172号 長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL (0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383 E-mail : com-k@hb.tp1.jp	 <b>駒ヶ根市役所</b>	承認	件名	図面名称	縮尺	日付	図面番号
			令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業	建築工事特記仕様書 2	NS	R 7 ・ 10 ・ ※	A-02
			駒ヶ根駅前駐車場改修工事			・ ・	



21. 鍵箱

市販品

形式・30組用・60組用・120組用・

22. 靴ふきマット

市販品

材質・塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製受枠）・ビニル製（ステンレス製受枠）  
・硬質アルミニウム製（受枠とも）・ステンレス製（受枠とも）

23. 流し台ユニット  
内取書による

種 類	寸法（L＝mm）	通 用 内 容	規格・品質等
・流し台	※1200・1500・750	トリア付	※優良住宅部品
・コンロ台	※600・700・	ﾊﾞｯｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ  ※有り	《ﾍｯｼｬﾂｷﾂﾅｲ I 型》
・つり戸棚	※1200・900・600		・
・水切り棚	※1200・900・	ｽﾃﾝﾚｽ製  ※1段式	※市販品

24. 屋内掲示板

枠の材質 ※アルミニウム製・  
表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り・

25. 洗面カウンター

材 種・メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）・人工大理石（品質 ※図示）  
奥行き（mm）・約450・約600

26. 防煙垂れ壁

・固定式

材 質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備 考
※網入り磨板ガラス・	※6.8・	※500・	アルミ製枠付き

・可動式

種 類	材 質	高さ（mm）	備 考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布（不燃認定品）	※500・800・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500・800・	表面仕上げ ※天井材張り・

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

27. 誘導用及び  
注意喚起用床材

ブロッケンにはJIS T 9251による  
色彩は黄色を原則とする  
屋内 ※塩化ビニル製・磁器又はせっ器質タイル（※300・）  
・レンジコンクリート製  
屋外 ※レンジコンクリート製・磁器又はせっ器質タイル（※300・）  
・ﾌﾞﾛｯｸ 製

28. 旗竿

材 質 ※アルミニウム合金製  
形 式 ※テーパー型・同一断面型  
地上高さ（m）・6・8・10・12  
操作方法 ※ハンドル式・ロープ式  
固定方法・埋込式・ベース式・バンド式

29. 旗竿受金物

材質 ステンレス製 SUS304

30. フェンス

※ビニル被覆エキスパンドフェンス・樹脂塗装メッシュフェンス・鋼管フェンス

31. 屋外掲示板

照明器具 ※有り・無し  
施 錠 ※有り・無し

32. 車止め支柱

ステンレス製（上下式鎖内蔵型）径114.3mm t＝2.5mm H＝6L＋700mm  
※ スプリング付き・スプリング無し

33. 収納・収納家具

材 質 ※図示・  
形状・寸法 ※図示  
ホルムアルデヒド放出量の等級 ※規制対象外・第三種

34. エキスパンション  
・ジョイント金物

材質・アルミ・ステンレス  
クリアランス・50・100・150・  
耐火性能・有り（）・無し  
防水型 ※適用する・適用しない

35. 建築物緑化

屋上緑化システム  
管理方法による区分・省管理型・管理型  
質量の上限值（）kg/m<sup>2</sup>  
かん水装置・設ける（工事区分は図示）  
透水路、保水層及び排水層等 保水層及び排水層の鉛直方向の排水性能：240 l / m<sup>2</sup>・h 以上  
耐荷重性能 省管理型：3×10 N / m<sup>2</sup>以上の載荷重で異常のないこと。  
耐根腐の材料 合成樹脂耐根腐シート（厚さ3mm以上）又は抗根性剤とする（耐根性能の実績を有すること）  
植込み用土 製造所の仕様による  
植栽の種類 製造所の指定するものとする

21. 排水工事

1. 排水管

排水管用材料 (21. 2. 1) (表21. 2. 1) (21. 3. 3)

材 種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※1種・2種）	B形（ゴム接合）
・硬質塩化ビニル管	※VP・VU	
・排水用ポリプロピレン強化塩化ビニル管	・REP・VU	

車道部の排水管の数値 ※図示 (21. 3. 1) (21. 3. 3)

・砂基礎（地業厚さ20cm以上 材料 山砂の類）

2. 排水溝及びふた

鋳鉄製マンホールふた (20. 2. 2)

種 類	適用荷重
・水封形	※密閉形（テーパー・パッキン式）T-2用・T-6用
・簡易気密形（パッキン式）	・中蓋付密閉形・T-14用・T-20用

グレーチングふた (21. 2. 2)

材質	形式	種類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
・鋼製	※受枠付き・	・溝ふた用・	・歩行用	※細目	※凹凸形
・ステンレス製		・樹ふた用・	・T-2用		
	ポルト固定	・かさ上げ用・	・T-6用	※普通目	※平形
	※無し	・U字溝用	・T-14用	・細目	・凹凸形
	・図示		・T-20用		

製造所 (21. 2. 3)

地業の材料 ※共仕4. 6. 2(a)による (21. 2. 3)

コンクリート発注強度 ※18N / mm<sup>2</sup> (21. 2. 3)

鉄筋の種別 ※SD295A (21. 2. 3) (表5. 2. 1)

埋戻し土 ※B種 (21. 2. 3) (表3. 2. 1)

22. 舗装工事

1. 盛土に用いる材料

・A種 ※B種・C種・D種 (22. 2. 3) (表3. 2. 1)

2. 遮断層及び凍上抑制層の材料

・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 (22. 2. 2) (22. 2. 3)

・凍上抑制層 ※再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ・切り込み砂利・砂

3. 路床安定処理

※添加材料による安定処理 (22. 2. 2) (22. 2. 3) (表22. 2. 2)

種類・普通ポルトランドセメント・フライアッシュセメントB種

・生石灰（）・消石灰（）

添加量 kg / m<sup>3</sup>（目標CBR ※5以上・）

4. 路床土の支持力比試験

※行う（※乱した土・乱さない土） (22. 2. 5)

5. 路床締固め度の試験

※行う (22. 2. 5)

6. 路盤材料

※再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ（RC-40） (22. 3. 3)

・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ（C-40）又はｸﾗｯｼｬﾗﾝｽﾗｸﾞ（CS-40）

透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

7. アスファルト舗装

(22. 4. 2) (表22. 4. 1)

舗 装 の 種 類	車道部の基層	カー舗装の種類
※アスファルト舗装	※無し・有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物
・カラーアスファルト舗装	※無し・有り	・

カラー舗装の着色骨材・着色骨材（焼成）・着色骨材（樹脂被覆） (22. 4. 3)

アスファルト ※再生アスファルト・ストレータアスファルト

加熱アスファルト混合物の種類 (22. 4. 4) (表22. 4. 6)

区分	※一般地域	・寒冷地域
表面	※密粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13 F）
	・細粒度アスファルト混合物（13）	・細粒度アスファルト混合物（13 F）

基層・粗粒度アスファルト混合物（20） (22. 4. 5)

シールコート ※行わない・行う（施工範囲） (22. 4. 6)

アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない・行う

8. コンクリート舗装

早強セメント ※使用しない・使用する (22. 5. 3) (22. 5. 3)

注入材料 ※低弾性タイプ・高弾性タイプ (22. 5. 3) (22. 5. 3)

溶接金網 ※有り・無し (22. 5. 3) (22. 5. 4)

厚さ試験 ※行わない・行う (22. 5. 6)

9. 透水性舗装

アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない・行う (22. 4. 6) (22. 6. 6)

10. 排水性舗装

アスファルト混合物 (22. 7. 3) (表22. 7. 2)

※改質アスファルトⅠ型・改質アスファルトⅡ型

タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類 (22. 7. 3) (表22. 7. 3)

適用時期	種 類
下記以外	P K R-T 1
冬 期	P K R-T 2

アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない・行う (22. 7. 6)

11. ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)

種 類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目 地 材
※普通平板（N）	・カラー平板（G ※300角	※60	※砂
・洗出平板（W）	・脱石平板（S）		・モルタル

・インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)

種 類	厚さ（mm）	色彩及び表面加工等
※標準ブロック	※80・	※標準品
・透水性ブロック	歩道部 ※60・	・
・誘導、注意喚起用ブロック		誘導、注意喚起用は黄色とする
・植生ブロック	※80・100	

インターロッキングブロック

項 目	品 質 ・ 性 能
材 セメント	JIS R 5210 ｶﾞﾙﾌﾗﾝﾄﾞﾎﾞﾙﾄ、JIS R 5211 高炉セメント、JIS R 5212 ｼｬﾙﾎﾞﾙﾄ、JIS R 5213 ﾌﾗｲｱｯｼｬﾙﾎﾞﾙﾄ、白色ｶﾞﾙﾌﾗﾝﾄﾞﾎﾞﾙﾄとする。
骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。
混和材料	インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。
着色材料	無機質材料を用い、耐候性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。
外観	使用上有害なきず、ひびわれ、欠け、変形等がない。
寸法許容差（mm）	長 さ 幅 厚 さ
普通タイプ	±3 ±3 ±3
透水性タイプ	±3 ±3 ±5～-1
植生用タイプ	±3 ±3 ±3
曲げ強度（N / mm <sup>2</sup> ）	普通タイプ 5. 0 以上 透水性タイプ 3. 0 以上 植生用タイプ 4. 0 以上
透水係数（cm / sec）	透水性タイプ 1 × 1 0 <sup>-2</sup> 以上
圧縮強度（N / mm <sup>2</sup> ）	普通タイプ 32. 0 以上 透水性タイプ 17. 0 以上

・鋪石舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)

種 類	厚 さ（mm）	施 工 方 法	規 格 品
※小鋪石（花こう岩）	※80～100・	※うろこ張り	※2等品
・	・	・	・

JIS K5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適 用	色	幅（mm）	布厚さ（mm）	揮発性有機溶剤の含有率
・1種	常温	液状	※白	※150	※1. 0	塗料総質量に対して5%以下
・2種	加熱		・	・	・	

※3種1号 溶融 粉体状

23. 植栽工事

1. 樹木の植栽整備

芝及び地被類 (23. 2. 2) (23. 2. 3) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2)

適 用	有効土層の厚さ（cm）	工 法	整備範囲
※行う・行わない	※20・	※B種・	※植栽範囲・図示

樹木

樹 木 の 樹 高	有効土層の厚さ（cm）	工 法	整 備 範 囲
・12以上	※100・120・150	※A種	・葉張りの範囲
・7超～12未満	※80・100	・B種	（樹高7m以上）
・3超～以下	※60・80	・C種	※植込み部分
・3以下	※50・	・D種	・図示

工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。  
ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。  
※現場発生土の良質土・客土（※畑土・黒土） (23. 3. 2)

2. 植込み用土

3. 土壌改良材

(23. 2. 3) (23. 2. 4)

※適用する

施工箇所 ※植栽範囲・図示

バーク堆肥

有機物の含有量（乾物）：70%以上  
炭素窒素比（C / N比）：35%以下  
陽イオン交換容量（乾物）：70meq / 100g以上  
pH：5. 5～7. 5  
水分：55～65%  
幼植物試験の結果：生育阻害その他の異常を認めない  
窒素含量（現物）：0. 5%以上  
リン酸含量（現物）：0. 2%以上  
アルカリ含量（現物）：0. 1%以上

免排水汚泥コンポスト  
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める法令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植替試験の調査の結果、害が認められないものとする。  
ヒ素：0. 005%以下  
カドミウム：0. 0005%以下  
水銀：0. 0002%以下  
ニッケル：0. 03%以下  
クロム：0. 05%以下  
鉛：0. 01%以下  
有機物の含有量（乾物）：35%以下  
炭素窒素比（C / N比）：20以下  
pH：8. 5以下  
水分：50%以下  
窒素含量（現物）：0. 8%以上  
リン酸含量（現物）：1. 0%以上  
アルカリ含量（現物）：15%以下

4. 支柱材

※杉の焼丸土（間伐材）・竹 (23. 3. 2)

5. 幹巻き用材料

※幹巻き用テープ・わら及びごみ (23. 3. 2)

6. 芝張り

種類 ※こういり芝・野芝 (23. 4. 2)

7. 枯植償等

新植樹木の枯植償の期間 ※1年・ (23. 3. 4)

移植樹木の枯植償の期間 ※1年・ (23. 3. 6)

芝及び地被類の枯植償の期間 ※1年・ (23. 4. 7) (23. 3. 4)

2. ②

工事現場の環境改善・建設副産物の取扱いについて

1. 工事現場の環境改善について

工事現場のイメージアップ  
・仮囲い周辺の美化  
地域住民への情報提供  
・完成予想図の設置  
・情報掲示板の設置  
・パンフレットの作成  
地域住民とのコミュニケーション  
・現場見学会の開催  
住民に対する災害防衛関係  
・現場出入口周辺への誘導員の配備  
②産業廃棄物の取扱いについて  
(1)解体工事を伴う場合は、解体工事施工計画書を作成し監督員の承認後施工。  
(2)廃棄物の処理に当たっては、請負者が自ら処理（分別、保管、収集、運搬及び処分の一連の行為）するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という。）に基づき、適正に行うこと。  
(3)廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施行前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運輸車両一覧並びに処分地の案内図を監督員に提出すること。  
(4)しゅん工したときは、積込み状況の写真、処分状況の写真、マフラーA票、B票、D票並びにE票の写しを監督員に提出すること。  
（B票及びD票はマフラー交付90日（特別管理産業廃棄物は60日）、E票は180日以内に提出するものとし、工期限内に提出できない場合は、監督員と協議すること。）  
③再生資源利用促進計画書等について  
「再生資源の利用の促進に関する法律」（以下「リサイクル法」という。）に基づき、請負者は、工事の着手前に「再生資源利用促進計画書」及び「再生資源利用計画書」を提出し、監督員の承認を受けること。また、しゅん工後に「再生資源利用促進実施書」及び「再生資源利用実施書」を提出すること。  
対象工事：リサイクル法に規定する一定規模以上の工事又は工事規模が1千万元以上の工事  
④ISO 14001関係  
(1)現場で使用する機械は、低騒音、低振動、低排ガス型施工機械とすること。  
(2)夜間、早朝等の稼働を避けること。ただし、監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。なお、運搬ルートへの選定に当たっては影響の少ないルートを選定すること。  
(3)汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等環境の回復に努めること。  
(4)地盤改良によって、周辺への水質、土壌など地下水に影響を与えるおそれがある場合は監督職員と協議を行うこと。  
「参考資料」：平成12年3月24日付、建設省技調発第49号、同発建発第10号（改正平成13年4月20日）「セメント及びセメント系固化工材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置について」  
(5)熱帯材合板型枠は、極力使用しないこと。  
資機材の運搬にあたっては、運搬車両の最大積載量を把握し過積載を行わないよう計画すること。また、飛散の恐れがあるものについては、飛散しないような処置を行い運搬すること。

3. ③

再生資源利用促進計画書等について

④ISO 14001関係

⑤過積載の禁止

2. ③

その他

①保険等

②その他

(1)本建築引渡しまで請負者は工事的目的、工事材料等について火災保険を掛けなければならない。  
(2)工事期間中請負者の責任において労災保険に加入し、その負担は請負者とする。  
(1)暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。  
(2)工事請負額が500万円以上の工事については、工事実績情報（工事カルテ）の登録をすること。  
（ただし工事請負代金額500万円以上2,500万円未満の工事については、受注時・訂正時のみ登録するものとする。）  
登録する場合は、あらかじめ監督職員の確認を受け、次に示す期間内に（財）日本建設情報総合センター（JACIC）に登録の手続きを行うとともに、登録されたことを証明する資料を監督職員に提出する。  
なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。  
①工事受注時 契約締結後10日以内  
②登録内容の変更時 変更契約締結後10日以内  
③工事完成時 工事完成後10日以内  
（連絡先：（財）日本建設情報総合センター 03-3505-2973）  
(3)下請契約締結後、速やかに下請員通知書を提出すること。  
指定業種については、下請け内訳書提出。  
(4)現場施工体制において、請負者は施工体制台帳を作成し、工事期間中工事現場に備え付けるとともに、監督職員に写しを提出すること。  
また、工事現場における施工の分担関係を明示した「施工体系図」を作成し、これを工事関係者及び公衆の見やすい場所に掲示を行うこと。  
※施工体制台帳に記載すべき内容  
・建設業法施行規則 第14条の2第1項に掲げる事項  
・安全衛生責任者名、安全衛生推進者名、雇用管理責任者名  
(5)下記業種等については、建設工事に関連性をもち、元請負者の指揮、調整のもと行われるものであるため施工体制台帳、施工体系図、契約書及び下請員通知書等整備すること。また、下記業種同等と考えられるものについても、同様に整備すること。  
・交通整理員、ガードマン  
・産業廃棄物処理業者  
・ダンプ運転（1人親方のダンプ運転手）  
・1日で完了する請負契約、小額な作業・雑工・労務のみ単価契約の請負契約  
・クレーン作業、コンクリートポンプ打設等日々の単価契約で行っているもの  
・クレーン等の重機オペレーターを機械と一緒にリース会社から借上げる場合  
・他の会社から応援者を借上げ、請負契約を締結した場合（臨時雇用関係である場合を除く）  
(6)本工事について、公共工事労務費調査、資材調査、建設副産物実態調査等の調査依頼を受けた場合は、これに協力すること。  
(7)施工途中において、会計局検査課職員及び発注機関の長が指定する職員による、抜打ち検査を実施する場合においては、これに協力すること。

上 野 C O M 建築設計事務所

管理 建築士 清水久雄 1級建築士登録195172号  
長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL (0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383  
E-mail : com-k@hb.tpl.jp

駒ヶ根市役所

承認

件名

令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業  
駒ヶ根駅前駐車場改修工事

図面名称

建築工事特記仕様書 4

縮尺




NS

日付

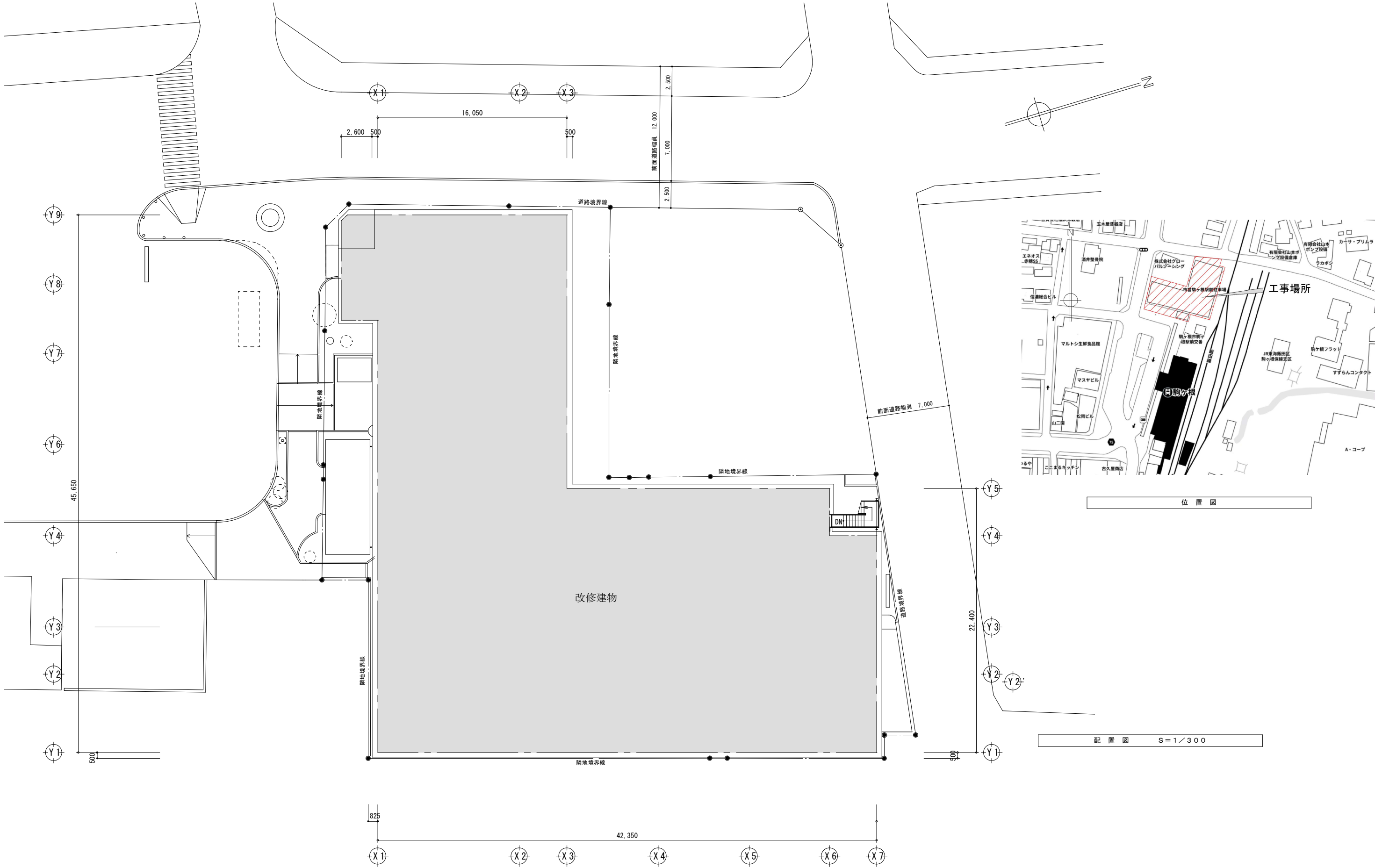
R7・10・※

図面番号

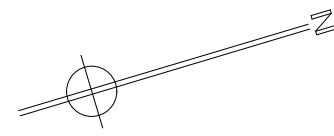
A-04

 <b>COM建築設計事務所</b> 管理建築士清水久雄 1級建築士登録195172号 長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL (0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383 E-mail : com-k@hb.tp1.jp	 <b>駒ヶ根市役所</b>	承認	件名	図面名称	縮尺	日付	図面番号
			令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業	解体工事仕様書	NS	R7 ・ 10 ・ ※	A-05
			駒ヶ根駅前駐車場改修工事				



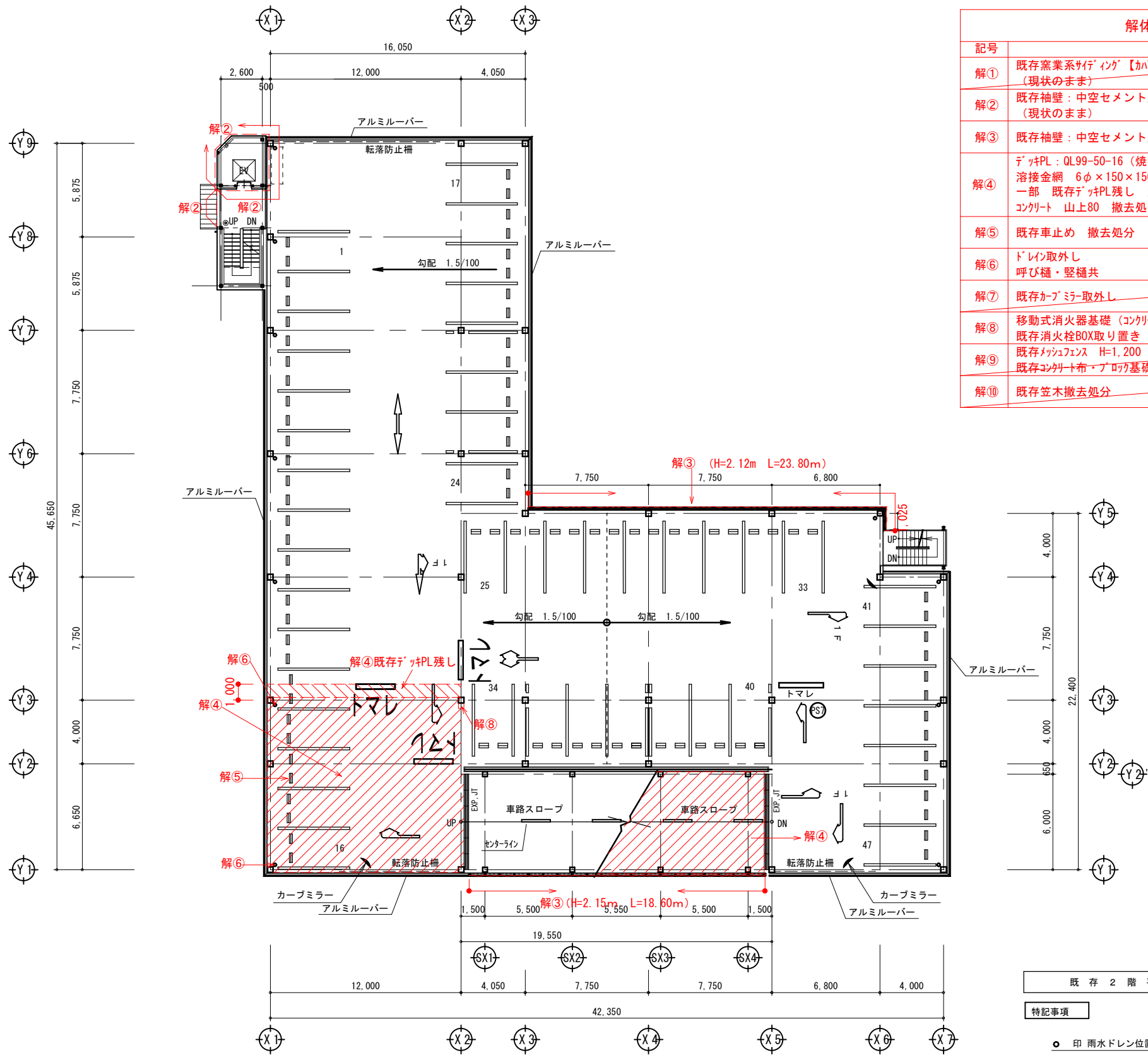


<div><div></div><div>COM建築設計事務所</div><div>管理建築士清水久雄 1級建築士登録195172号 長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL.(0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383 E-mail: com-k@hb.tpl.jp</div></div>	<div><div></div><div>駒ヶ根市役所</div></div>	<div>承認</div> <div></div> <div></div> <div></div>	件名	図面名称	縮尺	日付	図面番号
			令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業	配置図・位置図	S=1/300	R 7 • 10 • ※	A-06
			駒ヶ根駅前駐車場改修工事			• •	



解体撤去工事	
記号	工事内容
解①	既存窯業系サイディング【加へ工法】 (現状のまま)
解②	既存袖壁：中空セメント版 t=15 (現状のまま)
解③	既存袖壁：中空セメント版 t=15 撤去処分 (ハール3)
解④	デッキPL：QL99-50-16 (焼抜き溶接部分を残す) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150コンクリート 山上80・コンクリート止め 撤去処分 一部 既存デッキ残し 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート 山上80 撤去処分
解⑤	既存車止め 撤去処分
解⑥	ドレン取外し 呼び樋・堅樋共
解⑦	既存カバー取外し
解⑧	移動式消火器基礎 (コンクリート：500×400×300 <sup>1)</sup> ) 撤去処分 既存消火栓BOX取り置き
解⑨	既存メッシュフェンス H=1,200 そのまま 既存コンクリート布・ブロック基礎そのまま
解⑩	既存笠木撤去処分



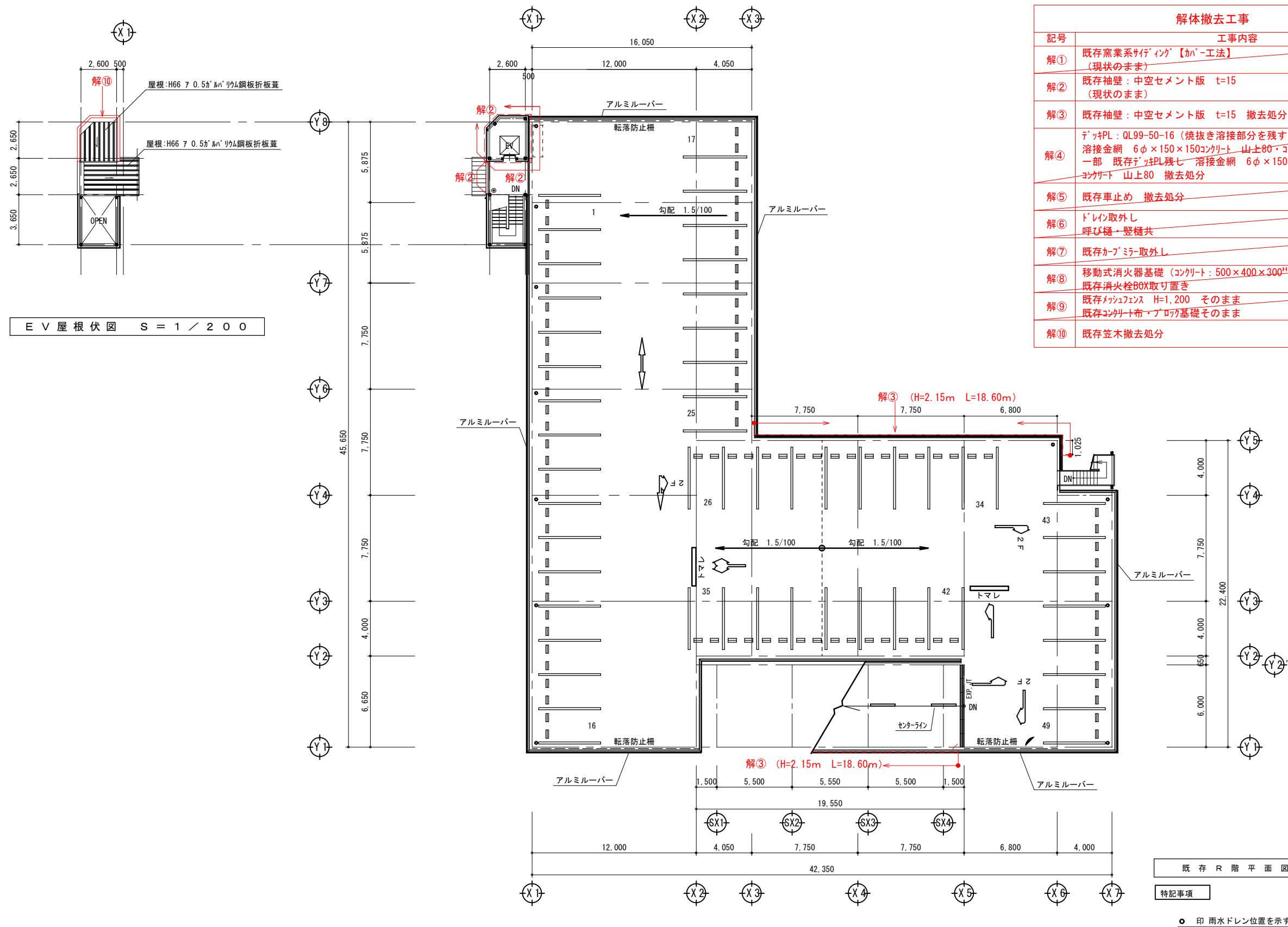


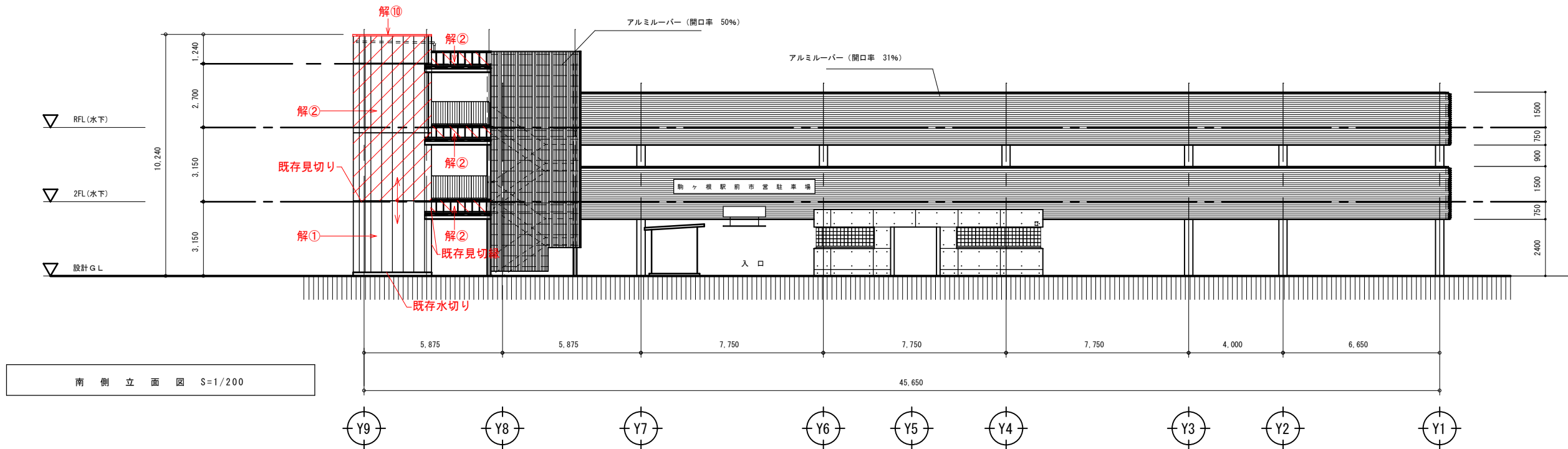
解体撤去工事	
記号	工事内容
解①	既存窯業系サイディング【カバー工法】 (現状のまま)
解②	既存袖壁：中空セメント版 t=15 (現状のまま)
解③	既存袖壁：中空セメント版 t=15 撤去処分 (レベル3)
解④	デッキPL：QL99-50-16 (焼抜き溶接部分を残す) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150コンクリート 山上80・コンクリート止め 撤去処分 一部 既存デッキPL残し 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート 山上80 撤去処分
解⑤	既存車止め 撤去処分
解⑥	ドレン取外し 呼び樋・竖樋共
解⑦	既存カーミラー取外し
解⑧	移動式消火器基礎 (コンクリート：500×400×300 <sup>mm</sup> ) 撤去処分 既存消火栓BOX取り置き
解⑨	既存メッシュフェンス H=1,200 そのまま 既存コンクリート布・ブロック基礎そのまま
解⑩	既存笠木撤去処分

既存 2 階 平 面 図 S=1/300

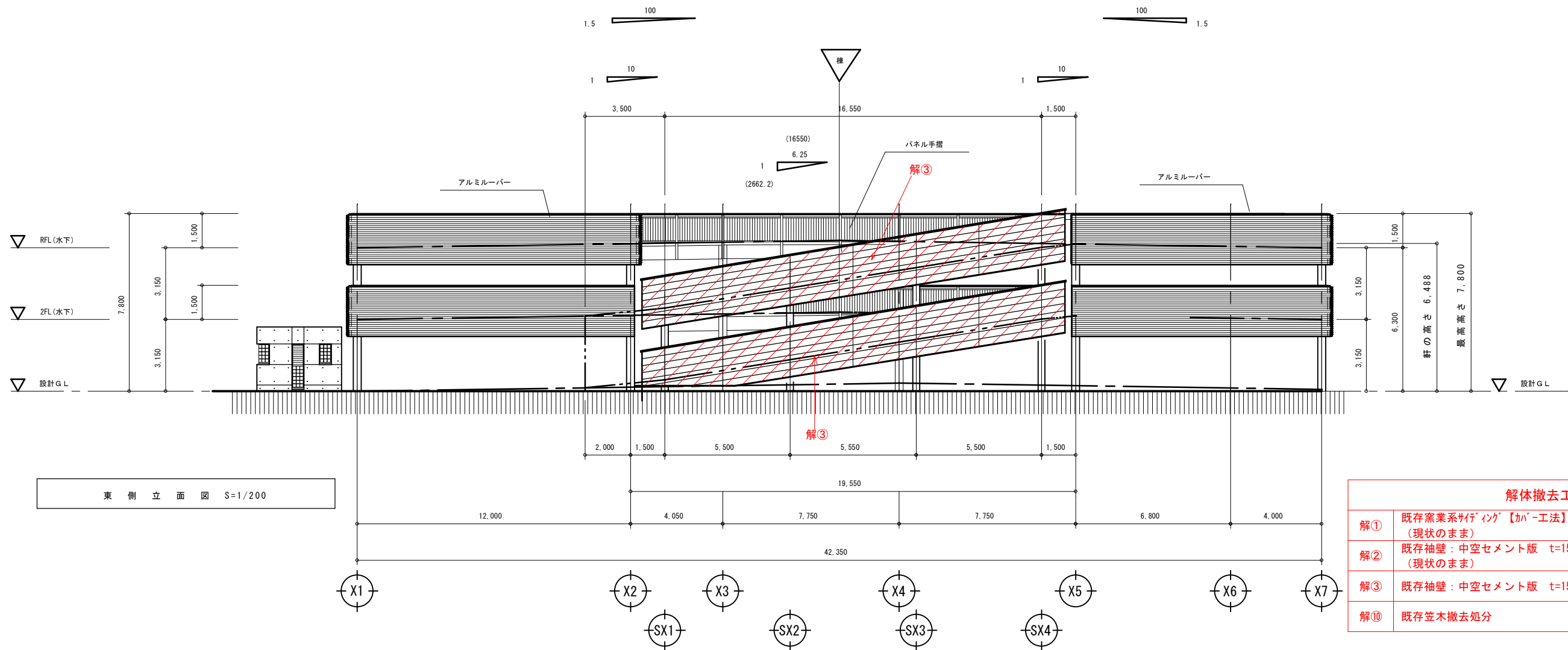
特記事項

● 印 雨水ドレン位置を示す。



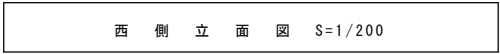
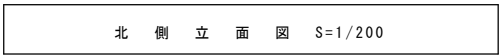


南側立面図 S=1/200

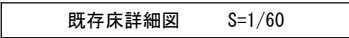
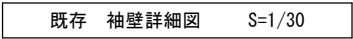


東側立面図 S=1/200

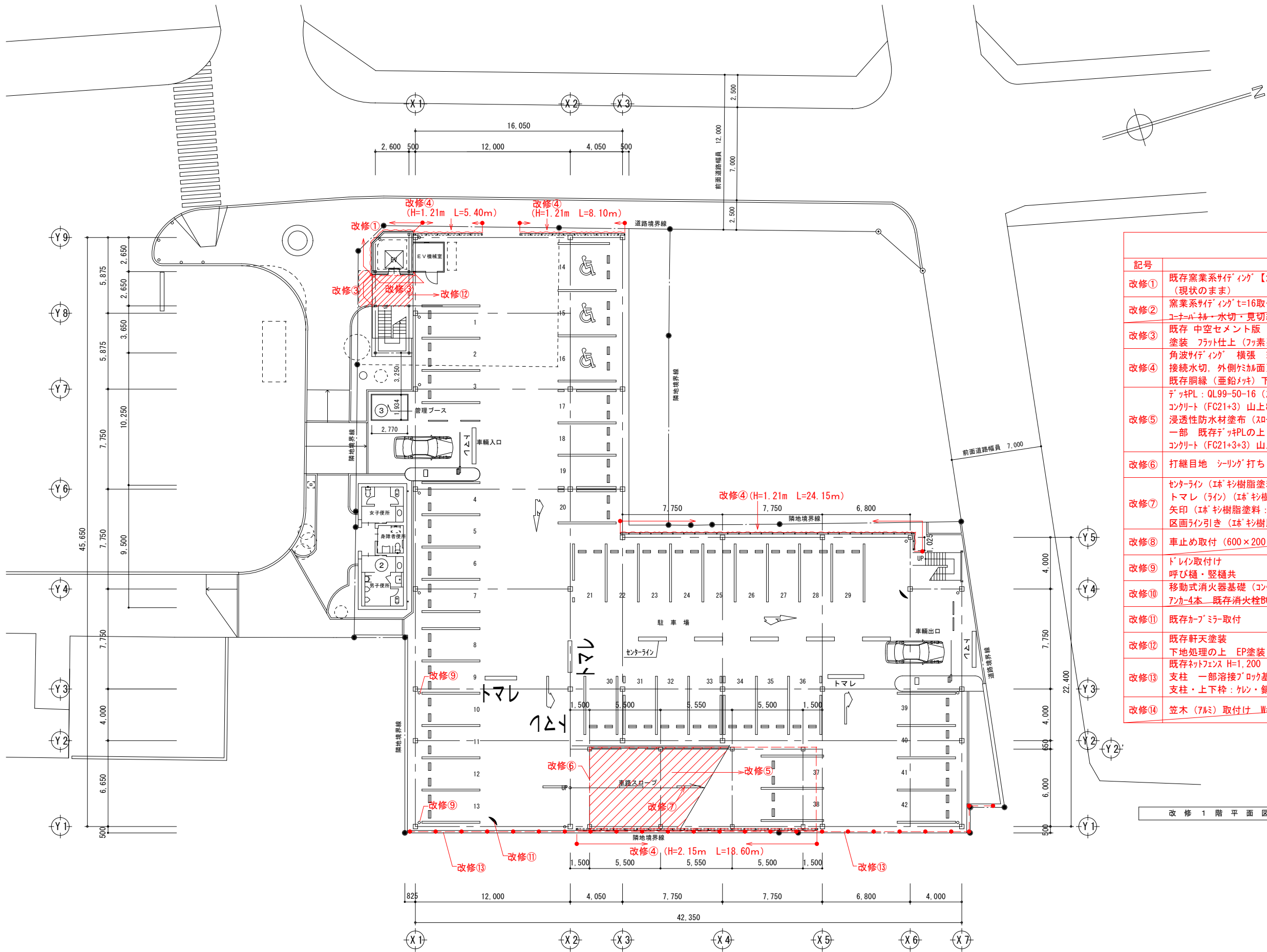
解体撤去工事	
解①	既存窯業系サイディング【カバー工法】 (現状のまま)
解②	既存袖壁：中空セメント版 t=15 (現状のまま)
解③	既存袖壁：中空セメント版 t=15 撤去処分 (レベル3)
解⑩	既存笠木撤去処分



解体撤去工事	
解①	既存窯業系サイディング【かべ工法】 (現状のまま)
解②	既存袖壁：中空セメント版 t=15 (現状のまま)
解③	既存袖壁：中空セメント版 t=15 撤去処分 (レベリング)
解⑩	既存笠木撤去処分



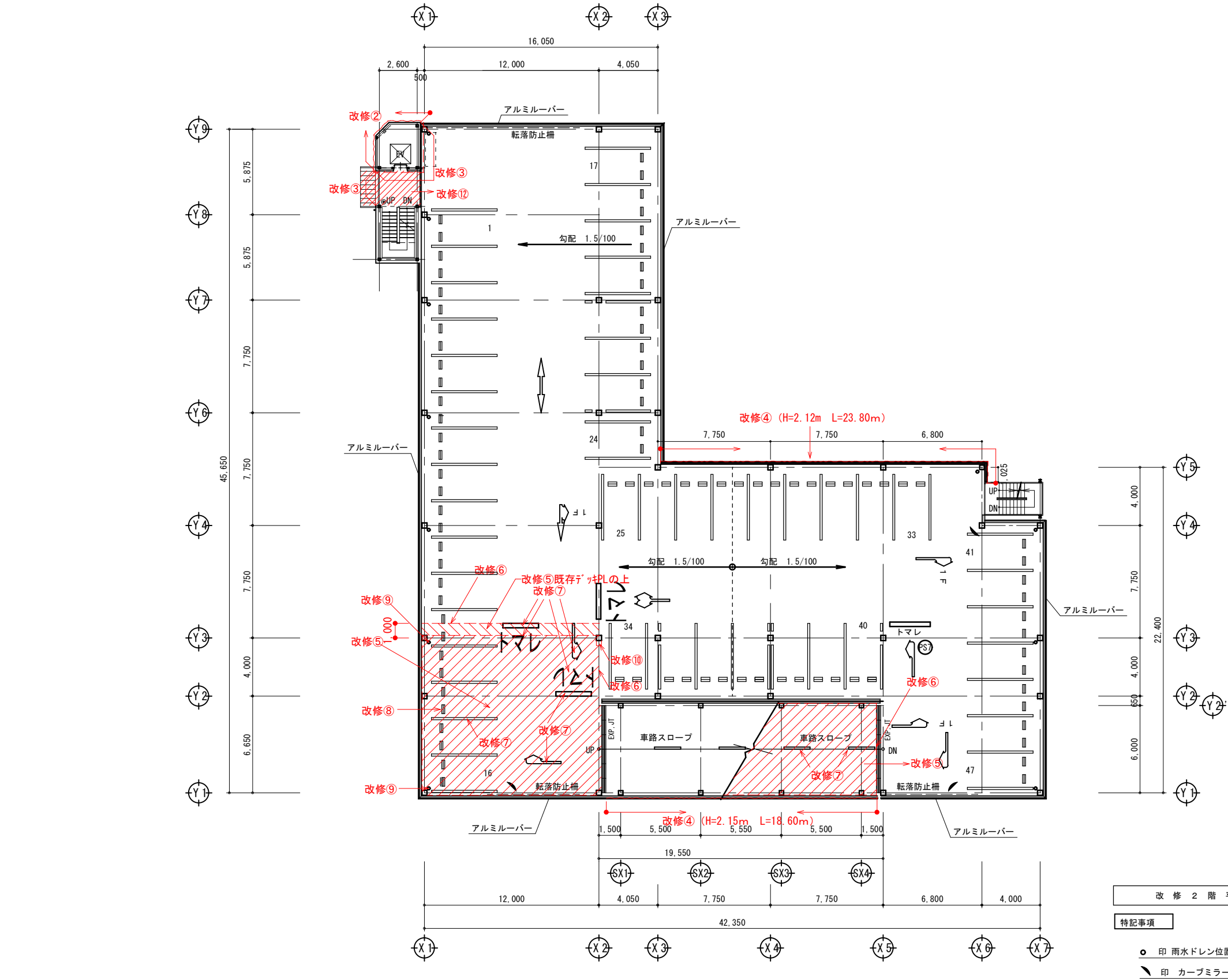
解体撤去工事	
記号	工事内容
解①	既存窯業系サイディング【カバー工法】 (現状のまま)
解②	既存袖壁：中空セメント版 t=15 (現状のまま)
解③	既存袖壁：中空セメント版 t=15 撤去処分 (レベル3)
解④	デッキPL：QL99-50-16 (焼ばき溶接部分を残す) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150コンクリート 山上80×コンクリート止め 撤去処分 一部 既存デッキPL残し 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート 山上80 撤去処分
解⑤	既存車止め 撤去処分
解⑥	ドレン取外し 呼び樋・竖樋共
解⑦	既存カバーミラー取外し
解⑧	移動式消火器基礎 (コンクリート：500×400×300 <sup>H)</sup> ) 撤去処分 既存消火栓BOX取り置き
解⑨	既存メッシュフェンス H=1,200 そのまま 既存コンクリート布・ブロック基礎そのまま
解⑩	既存笠木撤去処分



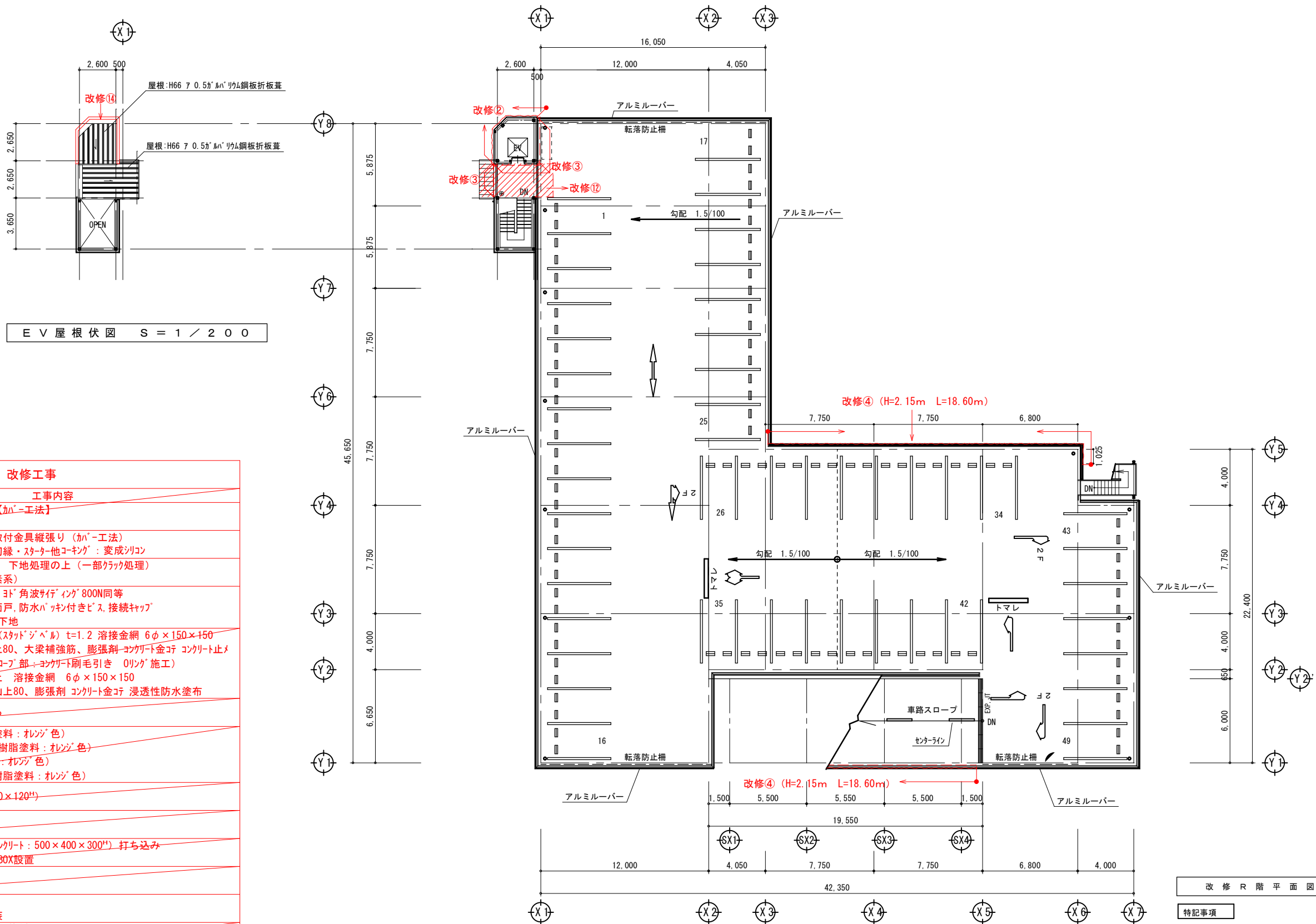
改修工事	
記号	工事内容
改修①	既存窯業系サイディング【カバー工法】 (現状のまま)
改修②	窯業系サイディングt=16取付金具縦張り (カバー工法) コーナースタッド・水切・見切縁・スター他コキング : 変成シリコン
改修③	既存 中空セメント版 下地処理の上 (一部クラック処理) 塗装 フラット仕上 (珪素系)
改修④	角波サイディング 横張 30°角波サイディング800N同等 接続水切、外側ケル面戸、防水パッキン付きヒス、接続キャップ 既存胴縁 (垂鉛メッキ) 下地
改修⑤	デッキPL : QL99-50-16 (スリットジベール) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3) 山上80、大梁補強筋、膨張剤 コンクリート金コ ンクリート止メ 浸透性防水材塗布 (スロープ部 : コンクリート刷毛引き 0リソグ 施工) 一部 既存デッキPLの上 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3+3) 山上80、膨張剤 コンクリート金コ 浸透性防水塗布
改修⑥	打継目地 シーリング 打ち
改修⑦	センターライン (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) トマレ (ライン) (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) 矢印 (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) 区画ライン引き (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色)
改修⑧	車止め取付 (600×200×120 <sup>mm</sup> )
改修⑨	ドレイン取付け 呼び樋・竖樋共
改修⑩	移動式消火器基礎 (コンクリート : 500×400×300 <sup>mm</sup> ) 打ち込み アンカー4本 既存消火栓BOX設置
改修⑪	既存カーブミラー取付
改修⑫	既存軒天塗装 下地処理の上 EP塗装
改修⑬	既存ネットフェンス H=1,200 修繕 支柱 一部溶接ブロック基礎傾き調整 支柱・上下枠 : クレン・錆止め・ウレタン塗装
改修⑭	笠木 (7 <sup>mm</sup> ミ) 取付け W=200 一部 W=175

改修1階平面図 S=1/300

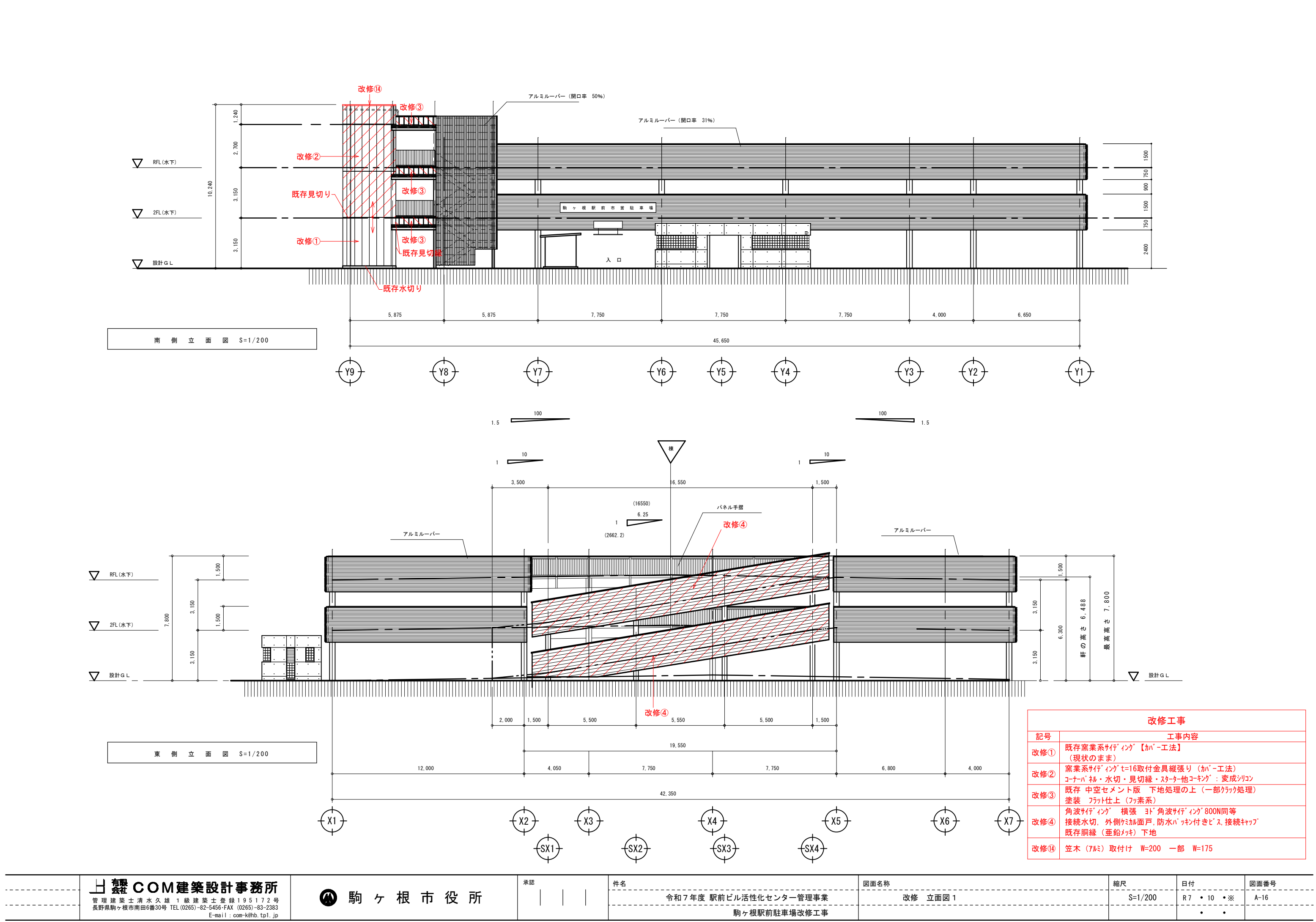




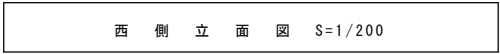
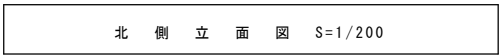
改修工事	
記号	工事内容
改修①	既存窯業系サイディング【カバー工法】 (現状のまま)
改修②	窯業系サイディング t=16取付金具縦張り (カバー工法) コーナーパネル・水切・見切縁・スター他コーキング : 変成シリコン
改修③	既存 中空セメント版 下地処理の上 (一部クラック処理) 塗装 フラット仕上 (フッ素系)
改修④	角波サイディング 横張 30°角波サイディング 800N同等 接続水切、外側がガルメタル、防水パッキン付きビス、接続キャップ 既存胴縁 (垂鉛メッキ) 下地
改修⑤	デッキPL : QL99-50-16 (スリットジベル) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3) 山上80、大梁補強筋、膨張剤 コンクリート金コ 10mm 浸透性防水材塗布 (スロープ部 : コンクリート刷毛引き 0.5mm 施工) 一部 既存デッキPLの上 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3+3) 山上80、膨張剤 コンクリート金コ 浸透性防水塗布
改修⑥	打継目地 シーリング 打ち
改修⑦	センターライン (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) トマレ (ライン) (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) 矢印 (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) 区画ライン引き (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色)
改修⑧	車止め取付 (600×200×120 <sup>mm</sup> )
改修⑨	ドレン取付け 呼び樋・縦樋共
改修⑩	移動式消火器基礎 (コンクリート : 500×400×300 <sup>mm</sup> ) 打ち込み アンカー4本 既存消火栓BOX設置
改修⑪	既存カーブミラー取付
改修⑫	既存軒天塗装 下地処理の上 EP塗装
改修⑬	既存ネットフェンス H=1,200 修繕 支柱 一部溶接ブロック基礎傾き調整 支柱・土下柵 : クレン・錆止め・ウレタン塗装
改修⑭	笠木 (70 <sup>mm</sup> ) 取付け W=200 一部 W=175



改修工事	
記号	工事内容
改修①	既存窯業系サイディング【カバー工法】 (現状のまま)
改修②	窯業系サイディングt=16取付金具縦張り (カバー工法) コーナーパネル・水切・見切縁・スター他コーキング : 変成シリコン
改修③	既存 中空セメント版 下地処理の上 (一部クラック処理) 塗装 フラット仕上 (フッ素系)
改修④	角波サイディング 横張 3D角波サイディング800N同等 接続水切、外側がミカ面戸、防水パッキン付きビス、接続キャップ 既存銅縁 (亜鉛メッキ) 下地
改修⑤	デッキPL : QL99-50-16 (スリットジベル) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3) 山上80、大梁補強筋、膨張剤-コンクリート金コテ コンクリート止メ 浸透性防水材塗布 (スロープ部-コウカド刷毛引き 0リング 施工) 一部 既存デッキPLの上 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3+3) 山上80、膨張剤 コンクリート金コテ 浸透性防水塗布
改修⑥	打継目地 シーリング 打ち
改修⑦	センターライン (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) トマレ (ライン) (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) 矢印 (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色) 区画ライン引き (エポキシ樹脂塗料 : オレンジ色)
改修⑧	車止め取付 (600×200×120 <sup>mm</sup> )
改修⑨	ドレイン取付け 呼び継ぎ・縦樋共
改修⑩	移動式消火器基礎 (コンクリート : 500×400×300 <sup>mm</sup> ) 打ち込み アンカー4本 既存消火栓BOX設置
改修⑪	既存カバー取付
改修⑫	既存軒天塗装 下地処理の上 EP塗装 既存ネットフェンス H=1,200 修繕
改修⑬	支柱 一部溶接ボルト基礎傾き調整 支柱・土下枠 : 刷金・錆止め・ウレタン塗装
改修⑭	笠木 (7 <sup>mm</sup> ) 取付け W=200 一部 W=175



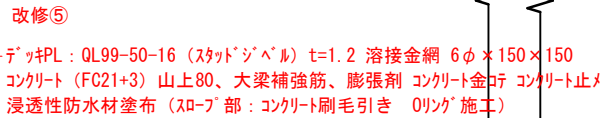
改修工事	
記号	工事内容
改修①	既存窯業系サイディング【カバー工法】 (現状のまま)
改修②	窯業系サイディング t=16取付金具縦張り (カバー工法) コーナーパネル・水切・見切縁・スター他コーキング : 変成シリコン
改修③	既存 中空セメント版 下地処理の上 (一部クラック処理) 塗装 フラット仕上 (フッ素系)
改修④	角波サイディング 横張 ヨド角波サイディング 800N同等 接続水切、外側にガル面戸、防水パッキン付きビス、接続キャップ 既存胴縁 (亜鉛メッキ) 下地
改修⑭	笠木 (アルミ) 取付け W=200 一部 W=175



改修工事	
記号	工事内容
改修①	既存窯業系サイディング【加へ-工法】 (現状のまま)
改修②	窯業系サイディングt=16取付金具縦張り(加へ-工法) コーナバ 祿・水切・見切縁・スター他コーキング：変成シリコン
改修③	既存 中空セメント版 下地処理の上 (一部タラシ処理) 塗装→フラット仕上(7万系系)
改修④	角波サイディング 横張 30 角波サイディング 800N同等 接続水切、外側ケミカル面戸、防水パッキン付きビス、接続キャップ 既存胴縁(亜鉛メッキ) 下地
改修⑭	笠木(70mm) 取付け W=200 一部 W=175



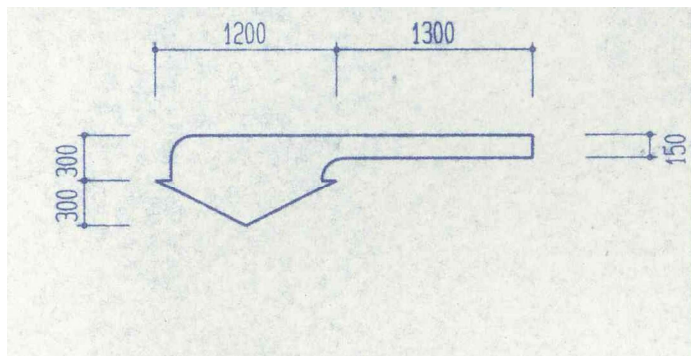
改修 袖壁詳細図 S=1/30



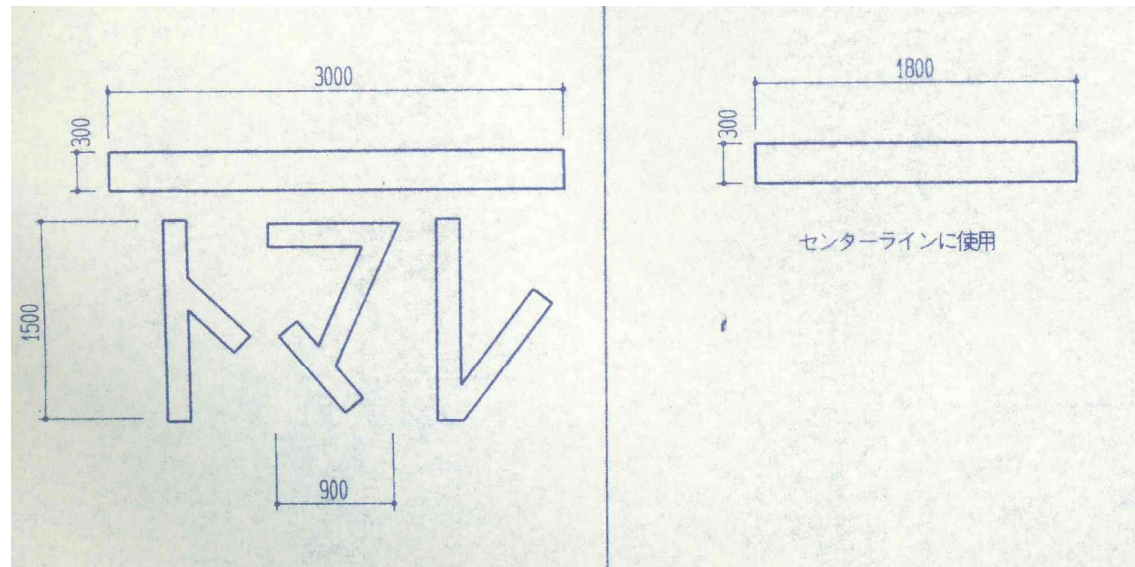
改修床詳細図 S=1/60

改修工事	
記号	工事内容
改修①	既存窯業系サイディング®【ｶｰﾌﾞ-工法】 (現状のまま)
改修②	窯業系サイディング® t=16取付金具縦張り (ｶｰﾌﾞ-工法) ユニバｰﾙ・水切・見切縁・ｽﾀｰﾀﾞ他ｺｰｷﾝｸﾞ : 変成シリコン
改修③	既存 中空セメント版 下地処理の上 (一部ｸﾗｯｸ処理) 塗装 フラット仕上 (ﾌﾞﾗｳﾝ系)
改修④	角波サイディング® 横張 ヨﾃ角波サイディング® 800N同等 接続水切、外側ｶﾙﾌ面戸、防水ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ付ｷﾞﾗｽ、接続ｷｬｯﾌﾟ 既存胴縁 (亜鉛ﾒｯｷ) 下地
改修⑤	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾗﾝｸ : QL99-50-16 (ｽﾀｯﾄﾞｼﾞｪﾙ) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150 ｺﾝｸﾘｰﾄ (FC21+3) 山上80、大梁補強筋、膨張剤 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾅ ｺﾝｸﾘｰﾄ止ﾒ 浸透性防水材塗布 (ｽﾛｰﾌﾟ部 : ｺﾝｸﾘｰﾄ剛毛引き 0ﾘﾝｸﾞ 施工) 一部 既存ﾃﾞｯｷﾌﾟﾗﾝｸの上 溶接金網 6φ×150×150 ｺﾝｸﾘｰﾄ (FC21+3+3) 山上80、膨張剤 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾅ 浸透性防水塗布
改修⑥	打継目地 シーﾘﾝｸﾞ 打ち
改修⑦	ｾﾝﾀｰﾗｲﾝ (ｲﾎﾞｰｷﾞｯｼﾞ樹脂塗料 : ｵﾚﾝｼﾞ色) ﾄﾏﾚ (ﾗｲﾝ) (ｲﾎﾞｰｷﾞｯｼﾞ樹脂塗料 : ｵﾚﾝｼﾞ色) 矢印 (ｲﾎﾞｰｷﾞｯｼﾞ樹脂塗料 : ｵﾚﾝｼﾞ色) 区画ﾗｲﾝ引き (ｲﾎﾞｰｷﾞｯｼﾞ樹脂塗料 : ｵﾚﾝｼﾞ色)
改修⑧	車止め取付 (600×200×120 <sup>㎜</sup> )
改修⑨	ﾄﾚｲﾝ取付け 呼び樋・竖樋共
改修⑩	移動式消火器基礎 (ｺﾝｸﾘｰﾄ : 500×400×300 <sup>㎜</sup> ) 打ち込み ﾌﾝｸﾞｰ4本 既存消火栓BOX設置
改修⑪	既存ｶｰﾌﾞﾐﾗｰ取付
改修⑫	既存軒天塗装 下地処理の上 EP塗装
改修⑬	既存ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ H=1,200 修繕 支柱 一部溶接ﾌﾞﾛｯｸ基礎傾き調整 支柱-土下柵 : ｸﾚﾝ・錆止め・ｳﾚﾀﾝ塗装
改修⑭	笠木 (ｱﾙﾐ) 取付け W=200 一部 W=175

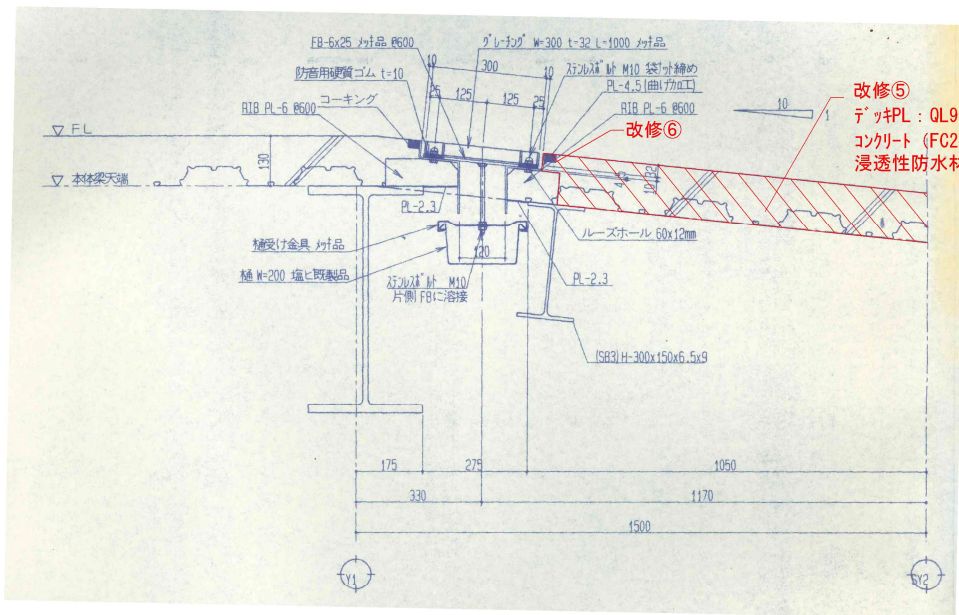




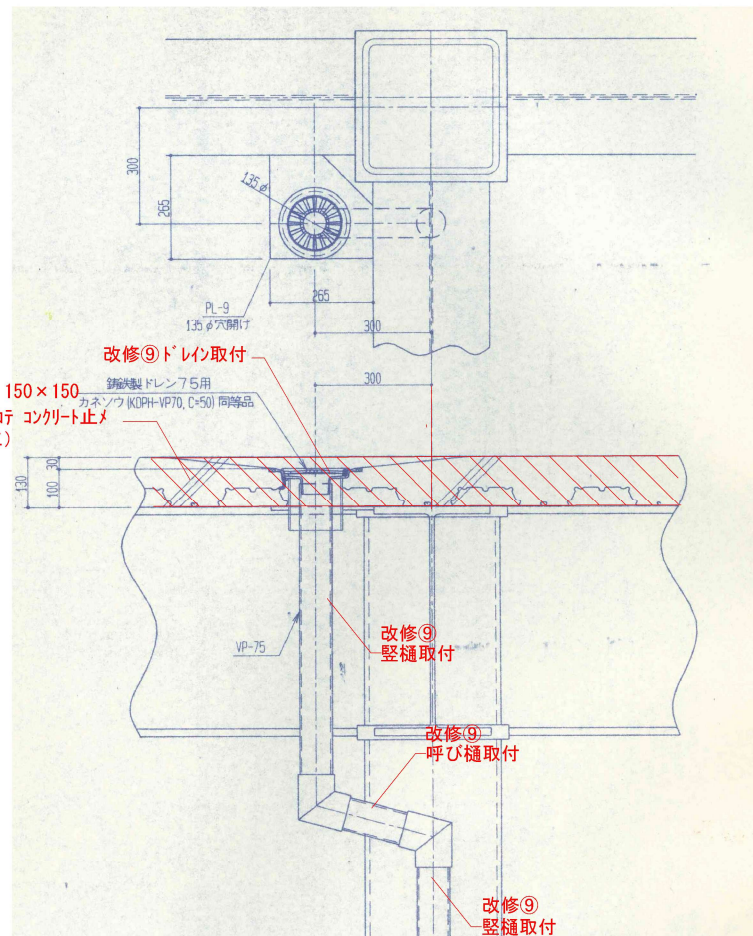
改修 詳細図 S=1/50



改修 詳細図 S=1/50



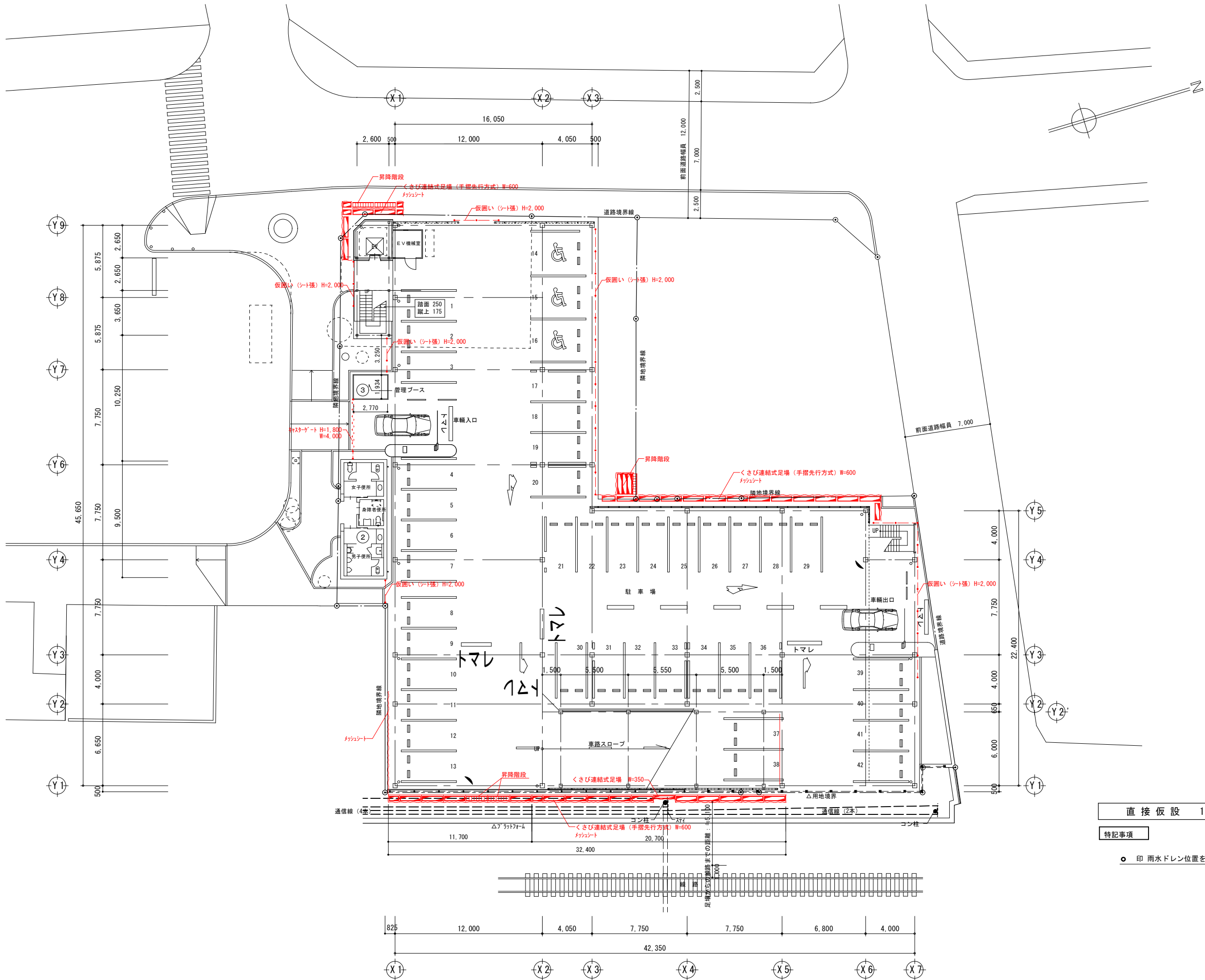
EXP. J 詳細図 S=1/20



ドレイン詳細図 S=1/20

改修工事	
記号	工事内容
改修①	既存窯業系サイディング【(加 <sup>○</sup> -工法) (現状のまま)
改修②	窯業系サイディング t=16取付金具縦張り (加 <sup>○</sup> -工法) コーナー部→水切・見切縁・スター他コーキング：変成シリコン
改修③	既存 中空セメント版 下地処理の上 (一部クラック処理) 塗装→フラット仕上 (フ素系)
改修④	角波サイディング 横張 3D 角波サイディング 800N同等 接続水切、外側にガルメツ、防水バツキ付きビツス、接続キャップ 既存胴縁 (亜鉛メッキ) 下地
改修⑤	デッキPL：QL99-50-16 (スタッド・ジベル) t=1.2 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3) 山上80、大梁補強筋、膨張剤 コンクリート金ゴ コンクリート止メ 浸透性防水材塗布 (スロ-プ 部：コンクリート刷毛引き オリンク 施工) 一部 既存デッキPLの上 溶接金網 6φ×150×150 コンクリート (FC21+3+3) 山上80、膨張剤 コンクリート金ゴ 浸透性防水塗布
改修⑥	打継目地 シーリング 打ち
改修⑦	センターライン (Eポ <sup>○</sup> 杉樹脂塗料：オレンジ <sup>○</sup> 色) トマレ (ライン) (Eポ <sup>○</sup> 杉樹脂塗料：オレンジ <sup>○</sup> 色) 矢印 (Eポ <sup>○</sup> 杉樹脂塗料：オレンジ <sup>○</sup> 色) 区画ライン引き (Eポ <sup>○</sup> 杉樹脂塗料：オレンジ <sup>○</sup> 色)
改修⑧	車止め取付 (600×200×120 <sup>mm</sup> )
改修⑨	ドレイン取付け 呼び樋・堅樋共
改修⑩	移動式消火器基礎 (コンクリート：500×400×300 <sup>mm</sup> ) 打ち込み アンカ4本 既存消火栓BOX設置
改修⑪	既存カーブミラー取付
改修⑫	既存軒天塗装 下地処理の上 EP塗装
改修⑬	既存ネットフェンス H=1,200 修繕 支柱 一部溶接ブロック基礎傾き調整 支柱→土下枠：ケレン・錆止め・ウレタン塗装
改修⑭	笠木 (アルミ) 取付け W=200 一部 W=175



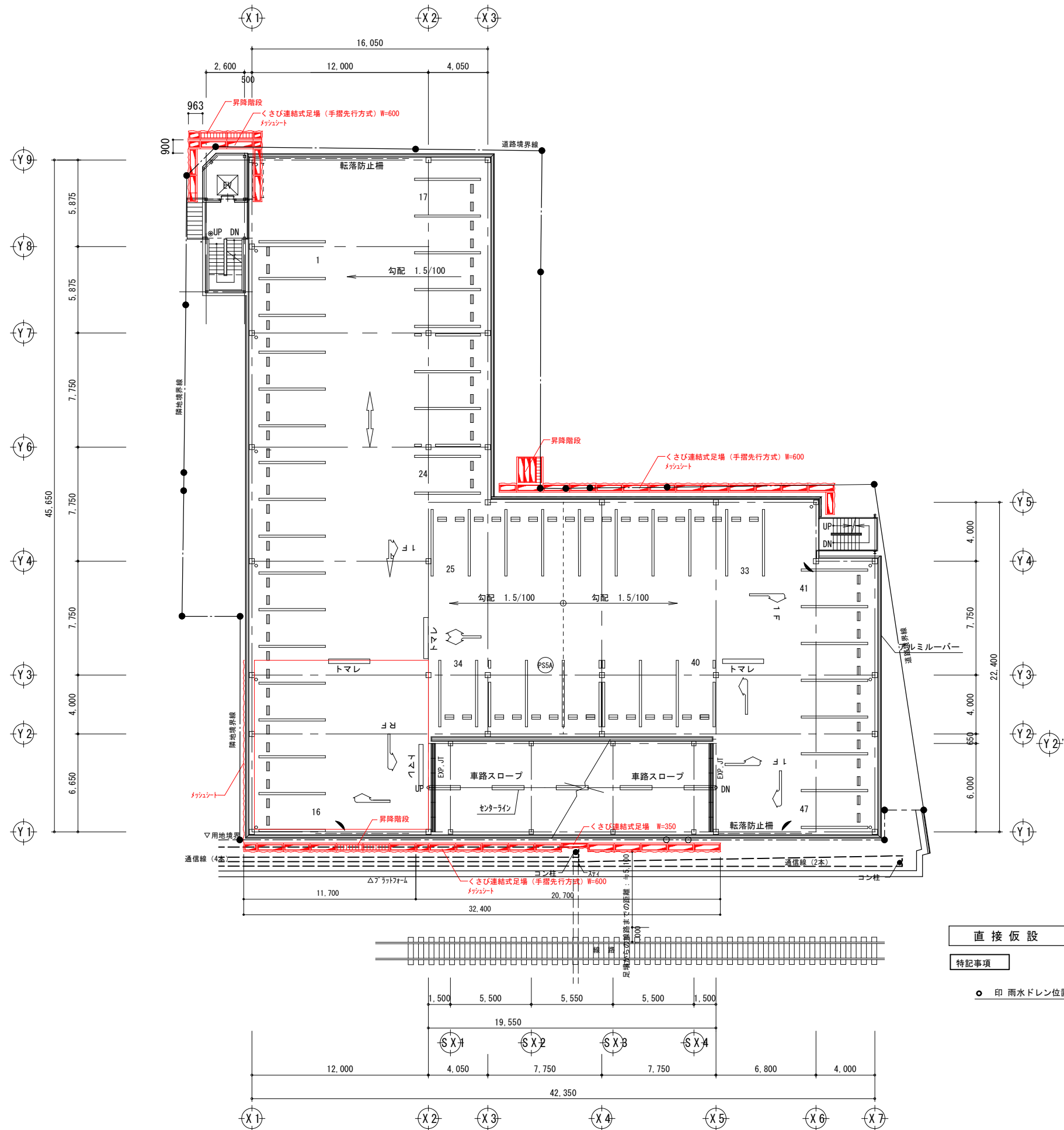


直接仮設 1階平面図 s=1/300

特記事項

● 印 雨水ドレン位置を示す。

<div><div>COM建築設計事務所</div><div>管理建築士清水久雄 1級建築士登録195172号 長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL (0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383 E-mail: com-k@hb.tpl.jp</div></div>	<div><div>駒ヶ根市役所</div></div>	<div>承認</div>	<div>件名</div> <div>令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業 駒ヶ根駅前駐車場改修工事</div>	<div>図面名称</div> <div>直接仮設 1階平面図</div>	<div>縮尺</div> <div>S=1/300</div>	<div>日付</div> <div>R7・10・※</div>	<div>図面番号</div> <div>A-20</div>
--	------------------------------	---------------	---	---------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	---------------------------------

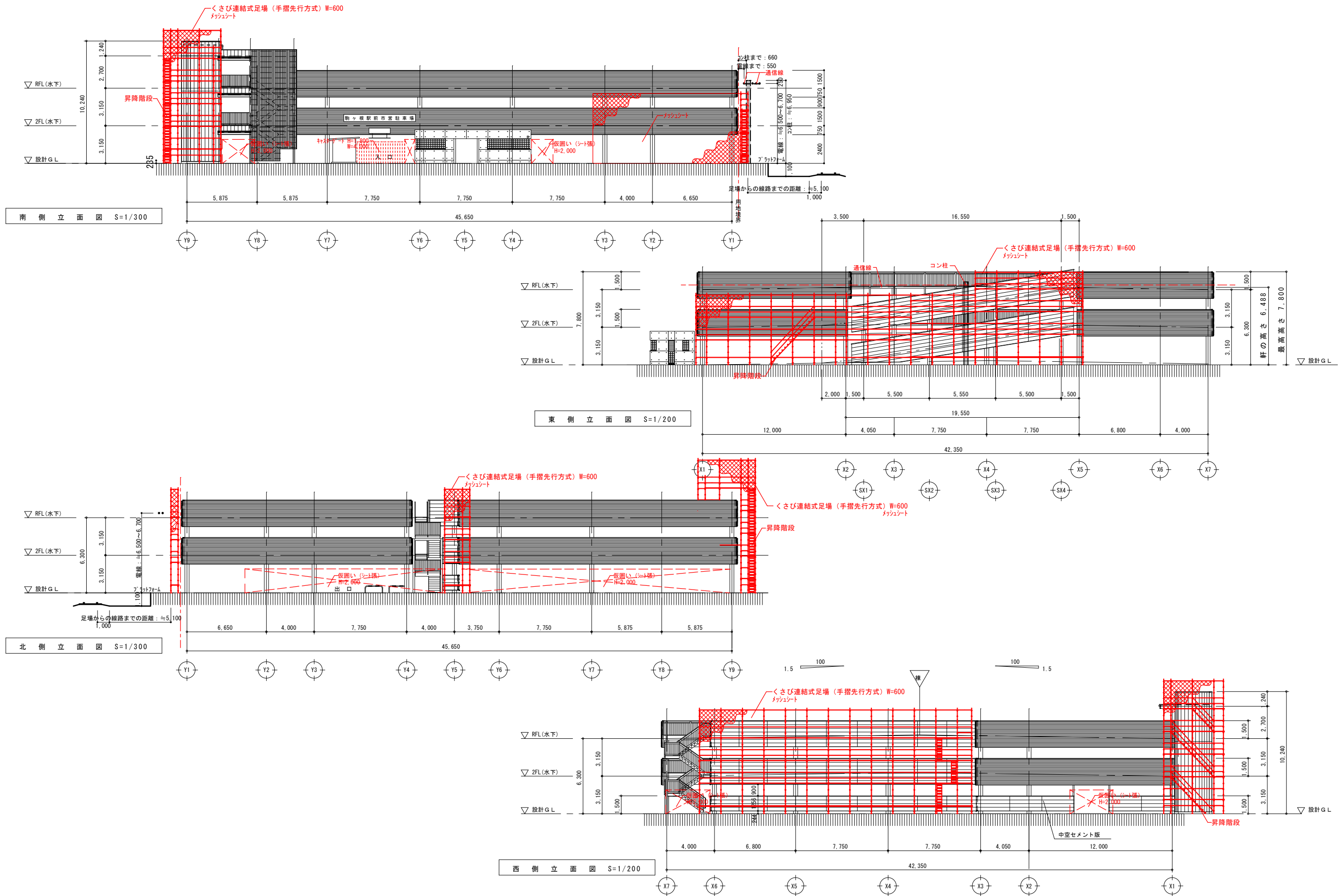


直接仮設 2階平面図 s=1/300

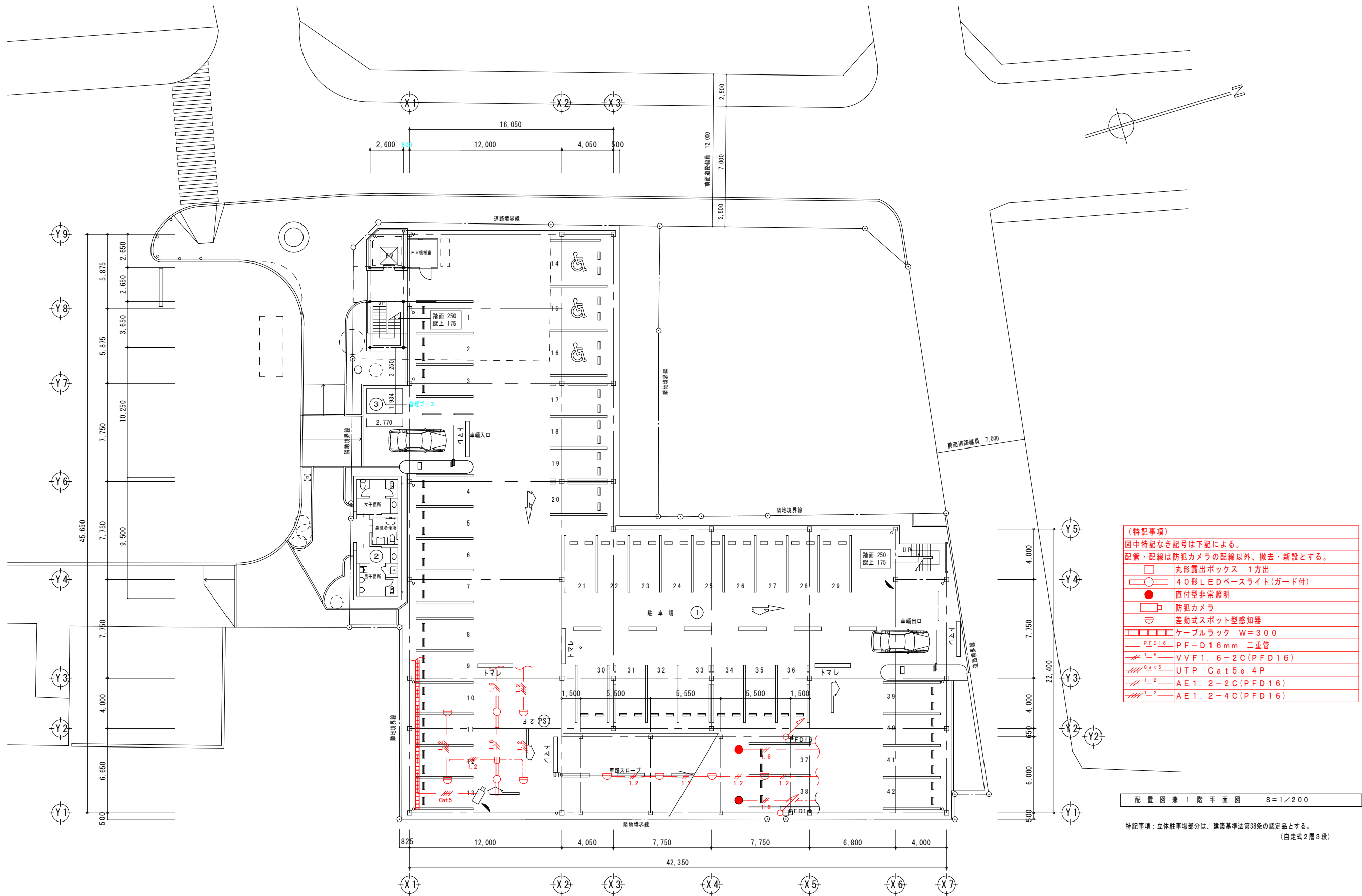
特記事項

● 印 雨水ドレン位置を示す。

<div>COM建築設計事務所</div> <div>管理建築士清水久雄 1級建築士登録195172号 長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL (0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383 E-mail: com-k@hb.tpl.jp</div>	<div>駒ヶ根市役所</div>	<div>承認</div> <div></div>	<div>件名</div> <div>令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業 駒ヶ根駅前駐車場改修工事</div>	<div>図面名称</div> <div>直接仮設 2階平面図</div>	<div>縮尺</div> <div>S=1/300</div>	<div>日付</div> <div>R7・10・※</div>	<div>図面番号</div> <div>A-21</div>
--	-------------------	---------------------------	---	---------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	---------------------------------



<div>COM建築設計事務所</div> <div>管理建築士清水久雄 1級建築士登録195172号 長野県駒ヶ根市南田6番30号 TEL (0265)-82-5456・FAX (0265)-83-2383 E-mail: com-k@hb.tpl.jp</div>	<div>駒ヶ根市役所</div>	<div>承認</div> <div></div>	件名	図面名称	縮尺	日付	図面番号
			令和7年度 駅前ビル活性化センター管理事業	直接仮設 立面図	S=1/200	R 7 ・ 10 ・ ※	A-22
			駒ヶ根駅前駐車場改修工事				



(特記事項)	
図中特記なき記号は下記による。	
配管・配線は防犯カメラの配線以外、撤去・新設とする。	
	丸形露出ボックス 1方出
	40形LEDベースライト(ガード付)
	直付型非常照明
	防犯カメラ
	差動式スポット型感知器
	ケーブルラック W=300
	PF-D16mm 二重管
	VVF1.6-2C(PFD16)
	UTP Cat5e 4P
	AE1.2-2C(PFD16)
	AE1.2-4C(PFD16)

配置図 素 1 階平面図 S=1/200

特記事項：立体駐車場部分は、建築基準法第38条の認定品とする。  
(自走式2層3段)